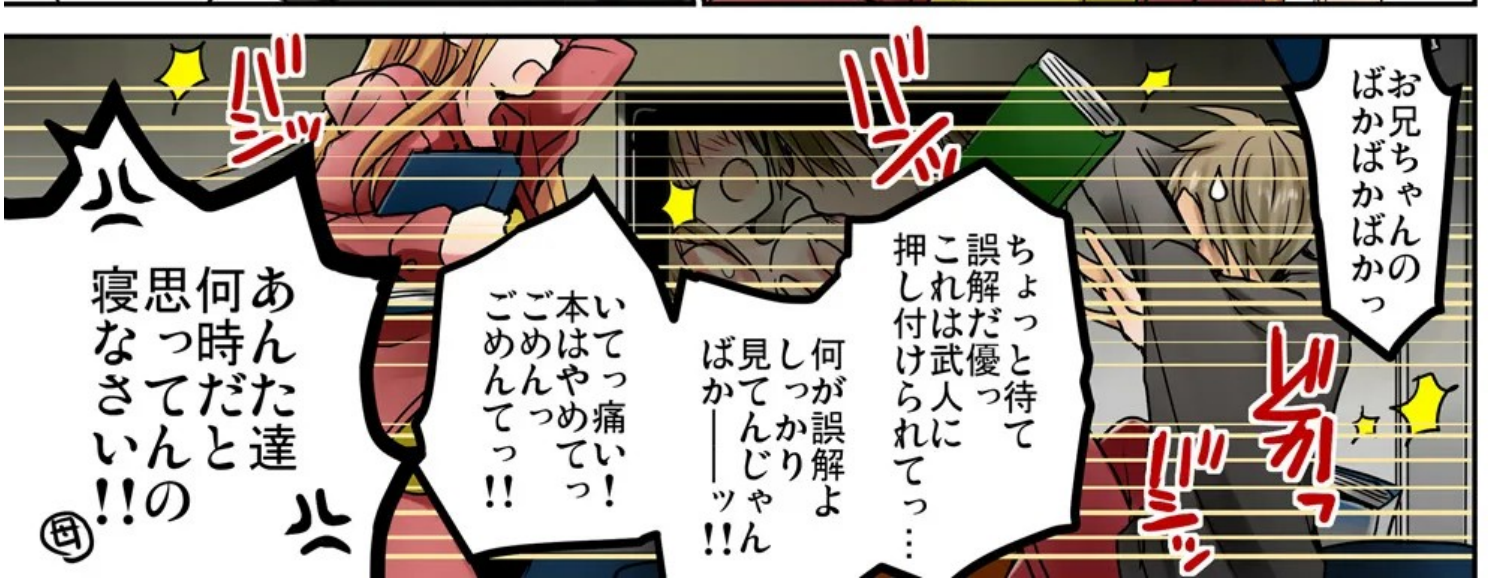
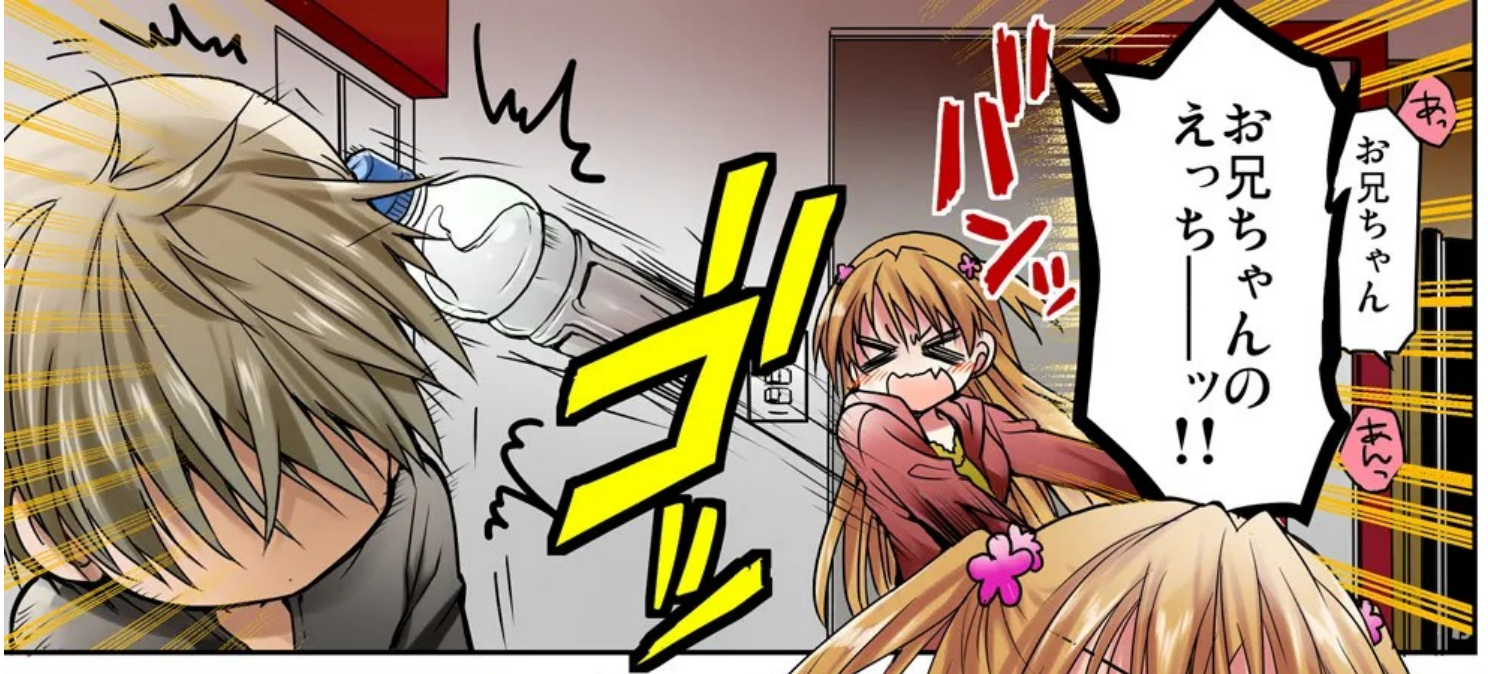


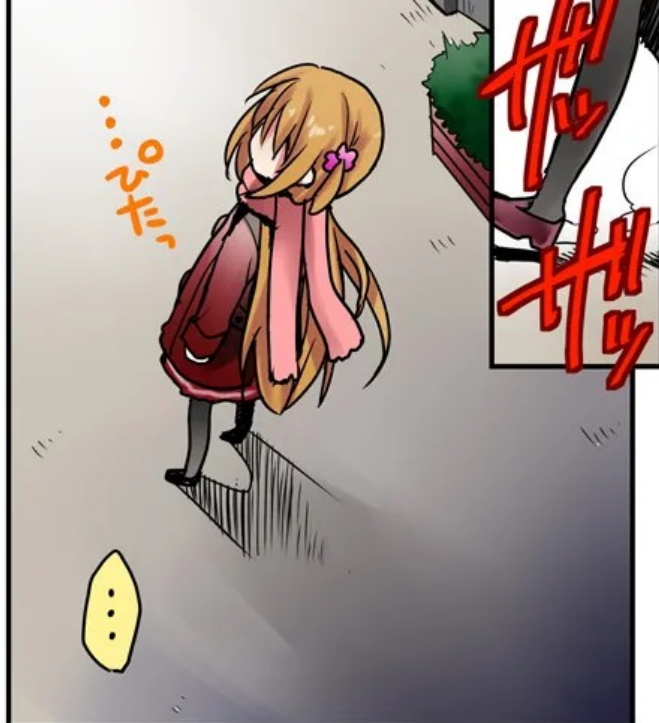
ひびき
き
零

あの夜、
妹をハメた
感触だけは
覚えてる。

第1話









.....うん

お兄ちゃんとは
暮らし始めたのは
わたしが4歳の時

お父さんの
再婚相手の
連れ子だった
お兄ちゃん



わたしには
性格がまるで正反對の
お姉ちゃんがいんだけど
二人ともすぐに打ち解けた

お兄ちゃんが来てから
毎日がすごく楽しくて



ずっとずっと
そんな日が
続くんだと
信じて疑わなかった
幼いわたしに

3年後
突然両親に
離婚を告げられた



わがまま
言うな優!

やだあああああ
おにいじやんど
一緒に行ぐうう

わがままって...
大人の都合を
押し付けてるのは
こっちの方よ?

お前は
黙ってる!

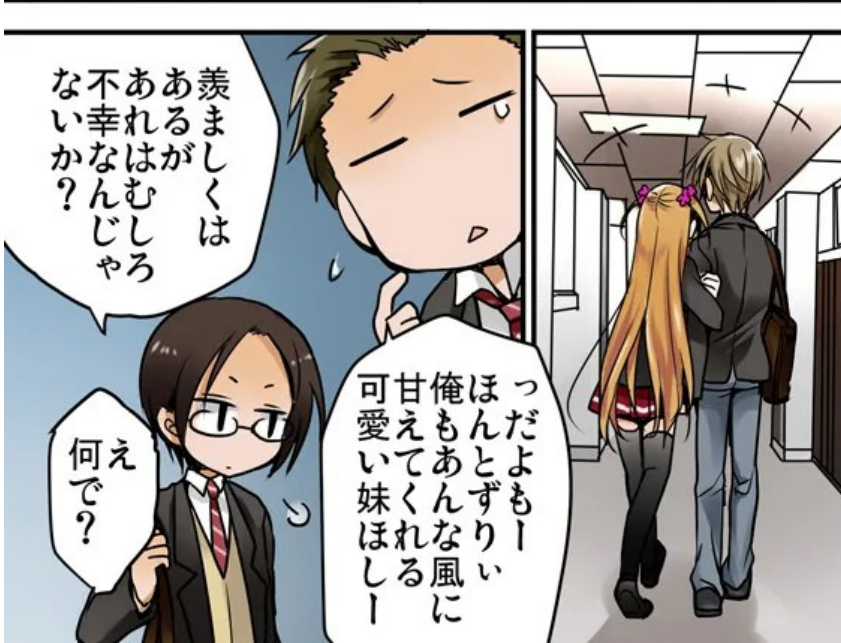
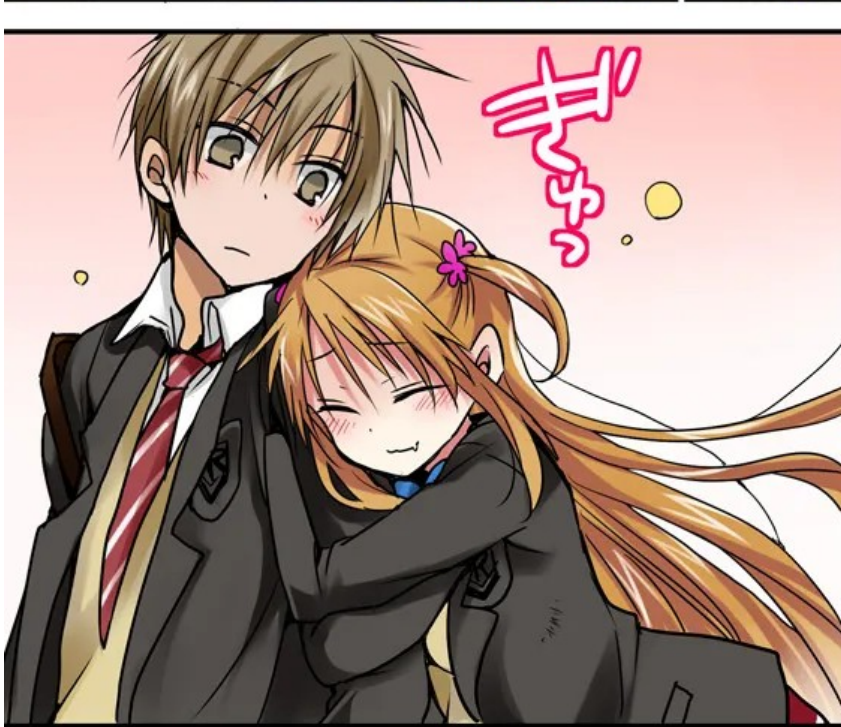
何日でも激しく
泣き喚くわたしと
言うことを聞かせようと
暴力をふるう父に
見かねたお母さんが

わたしを引き取ると
申し出てくれて
戸籍に入れてくれた

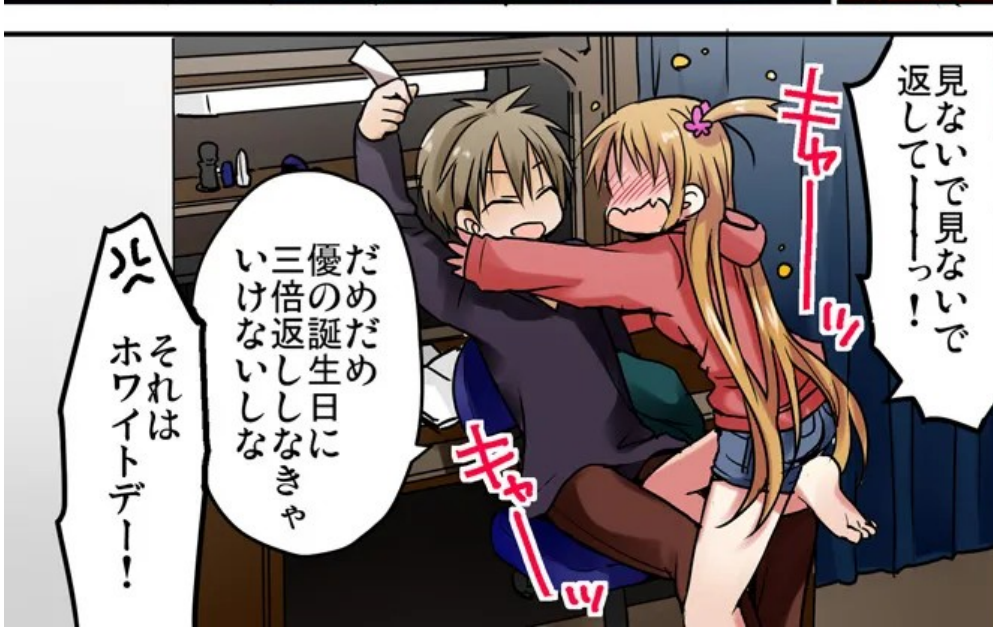
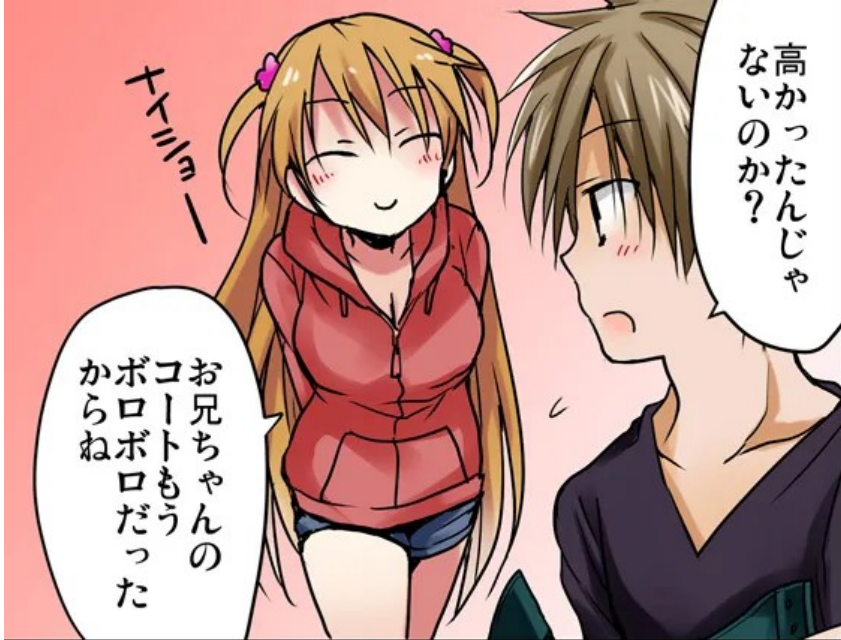


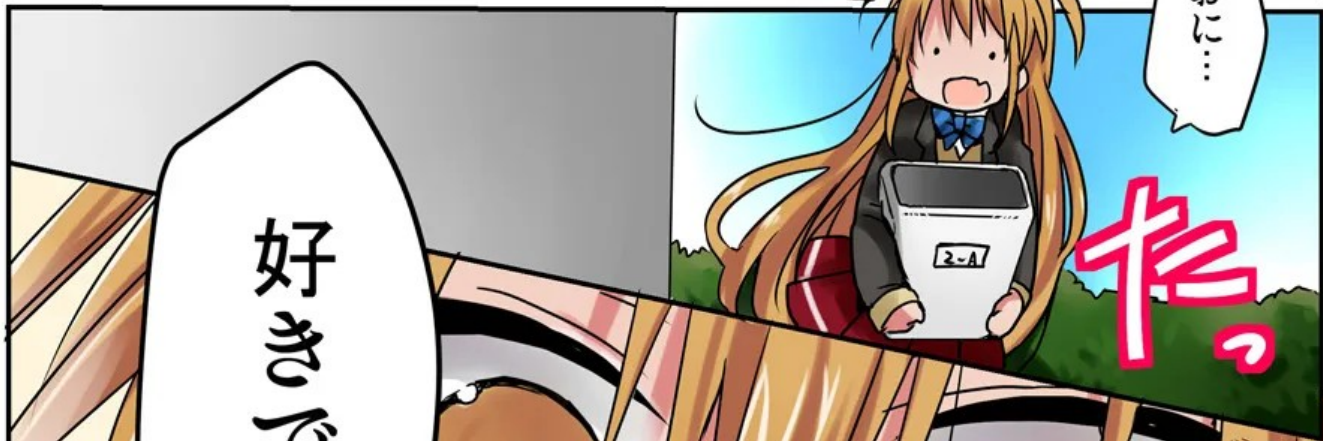
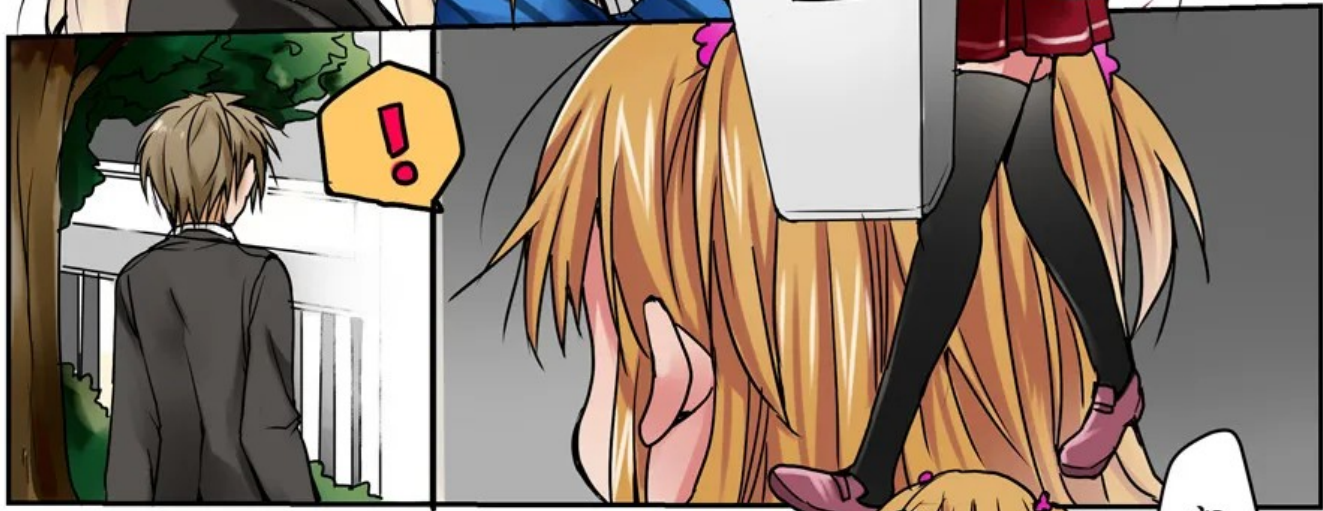
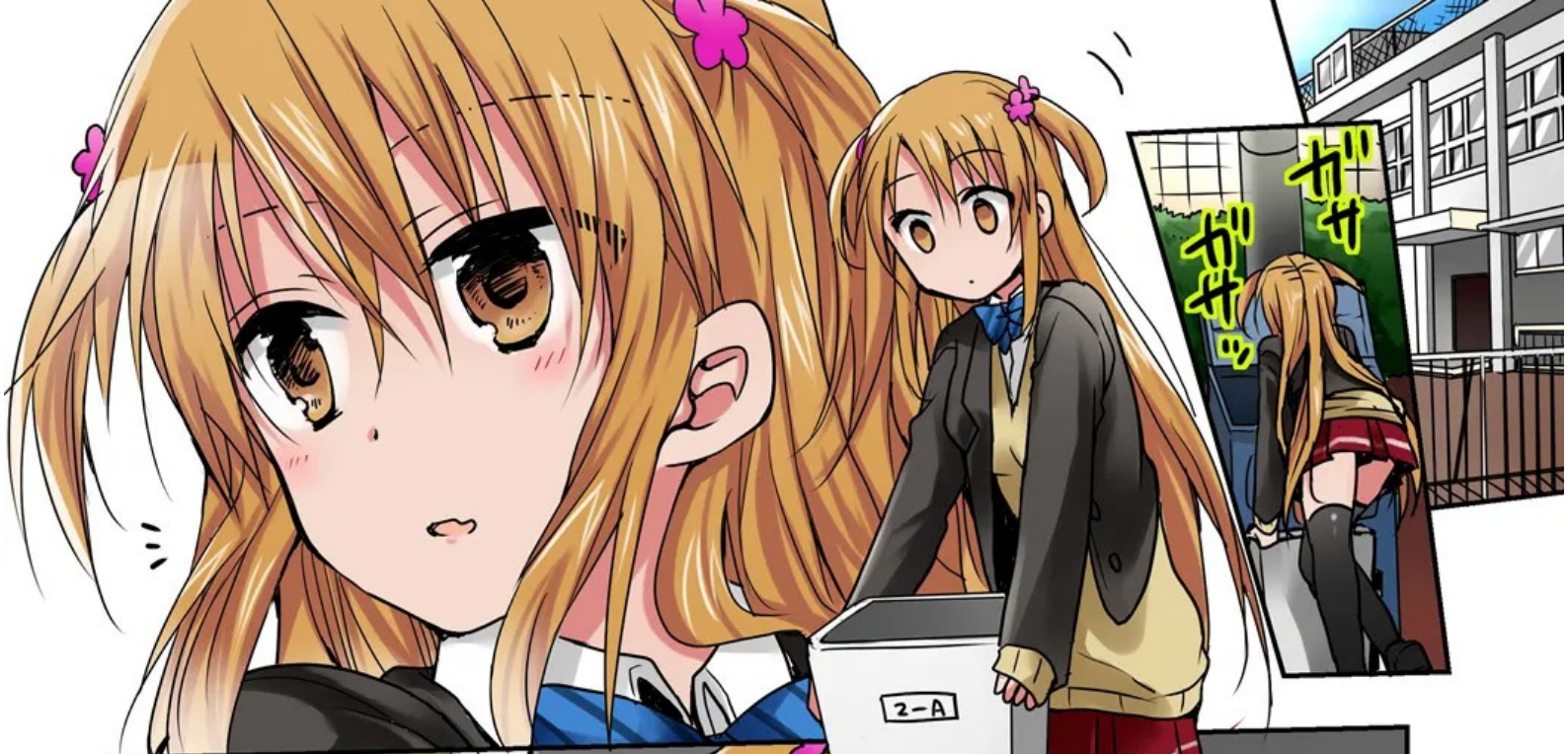
本当なら
わたしはもう二度と
お兄ちゃんには
会うことすらなかった
はずだった





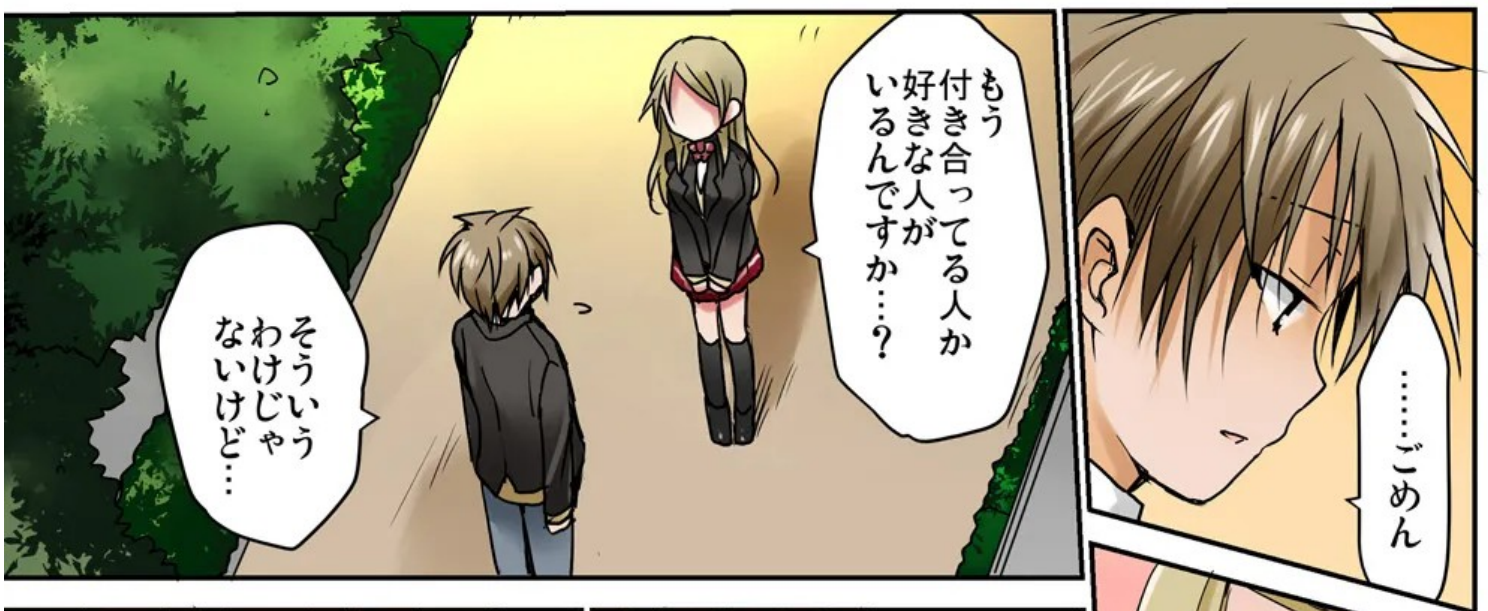
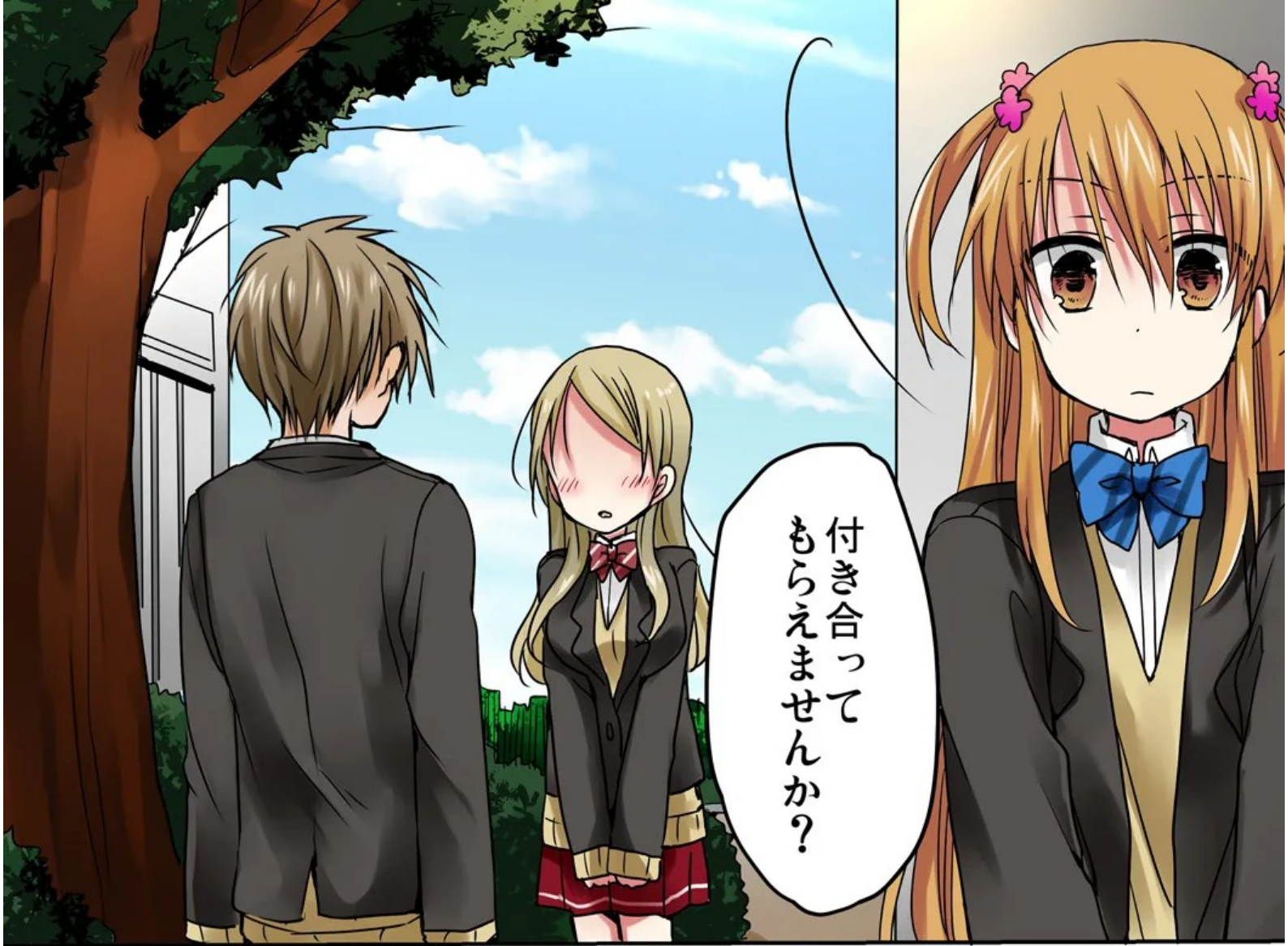




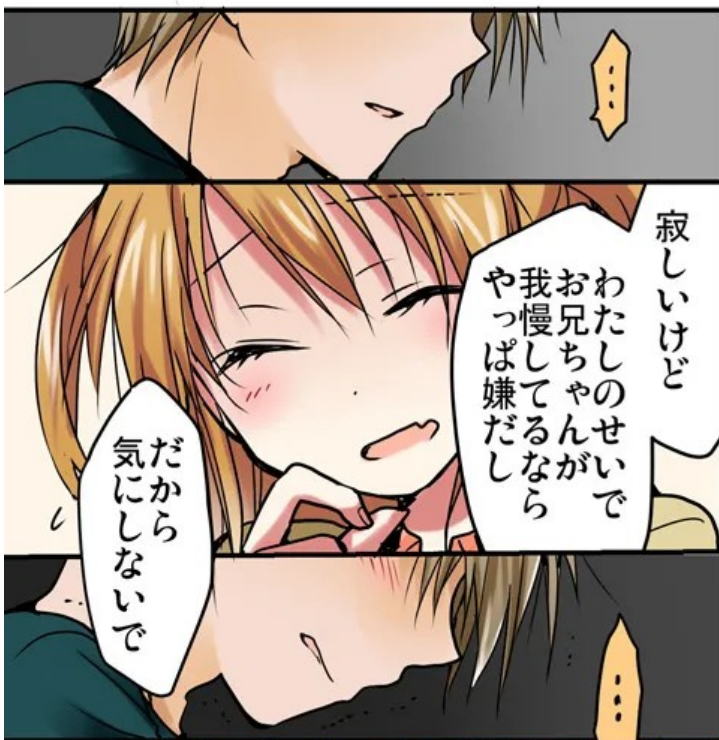


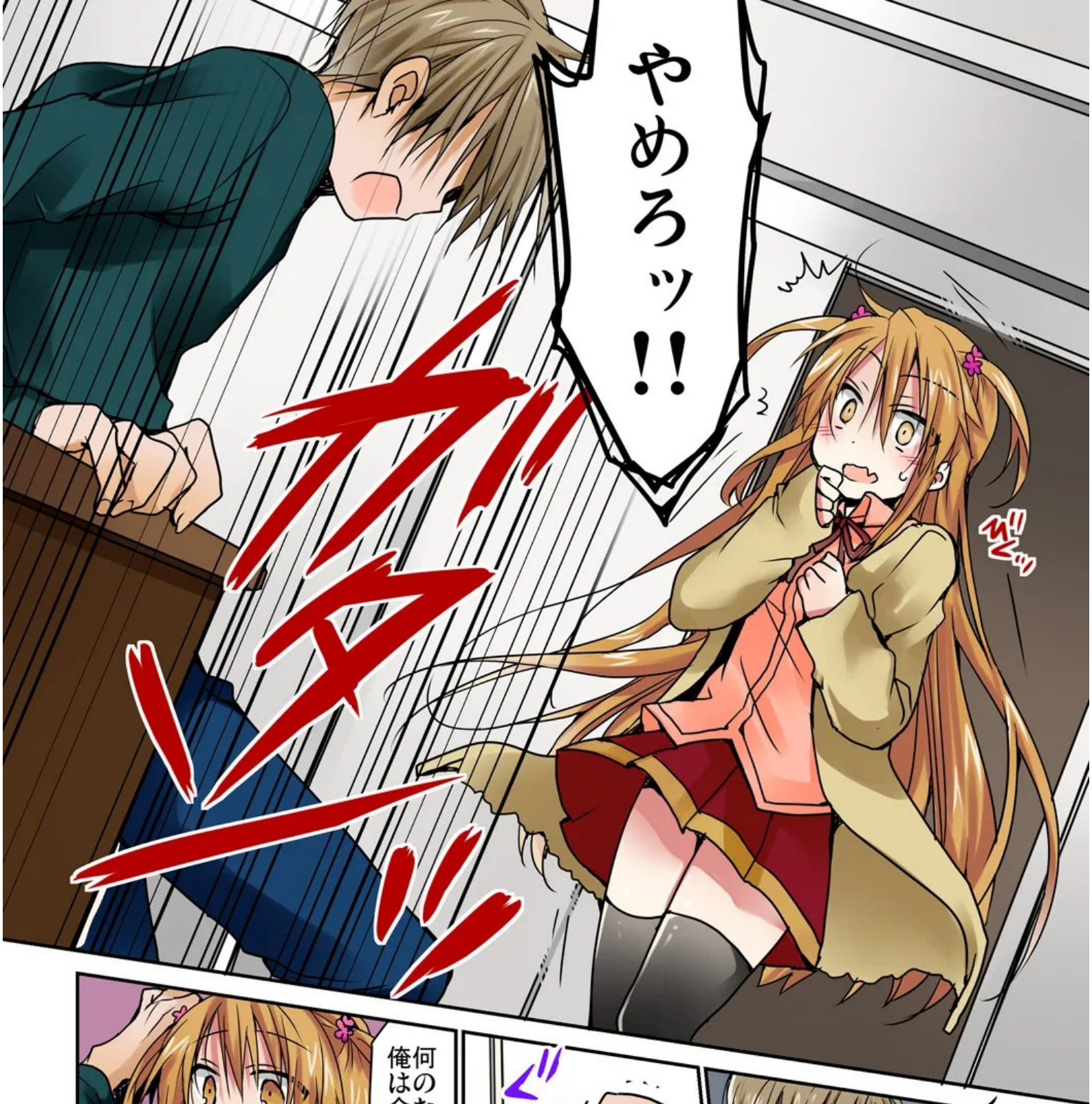
好きです

たっ





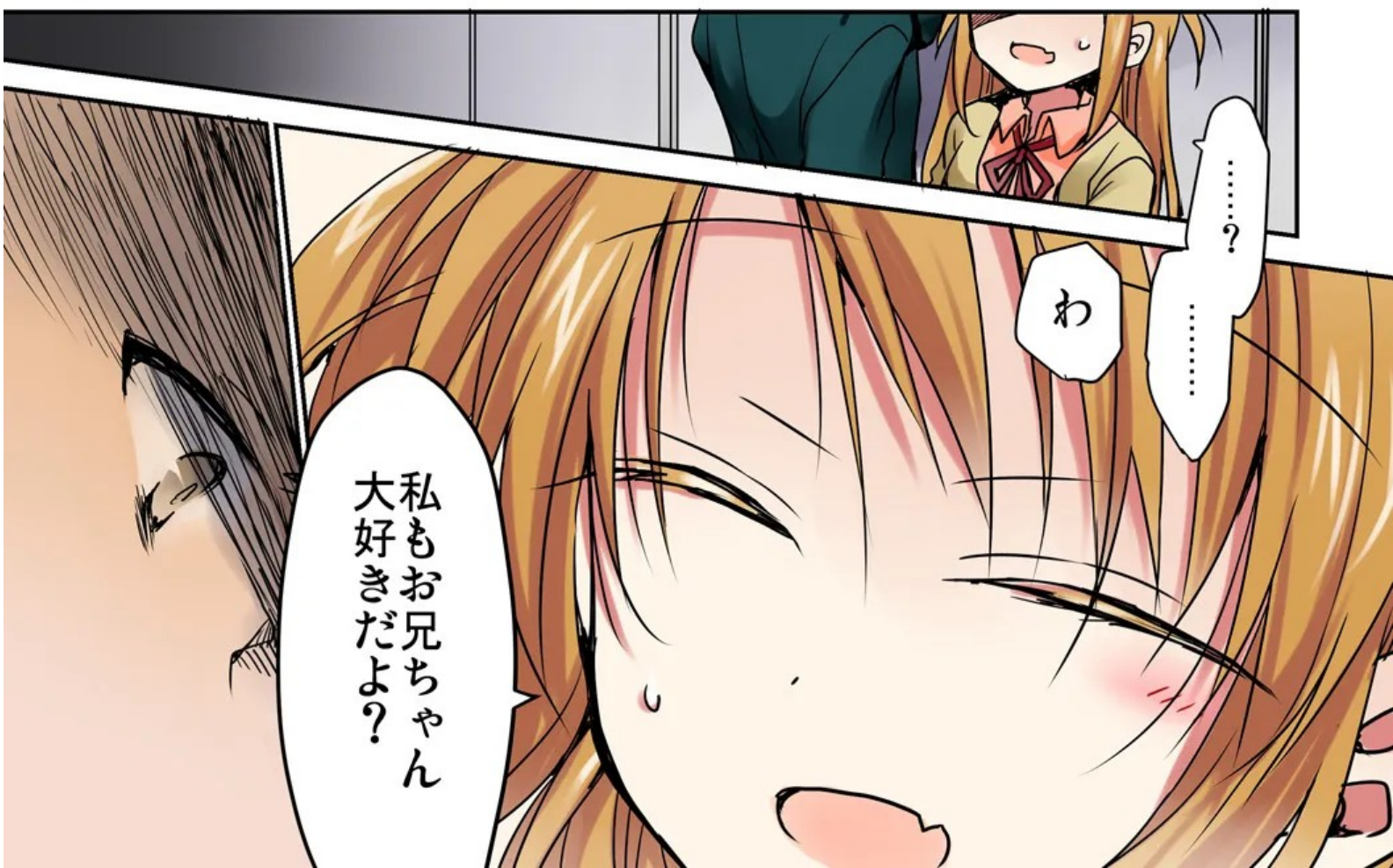






小さい頃から
ずっとお前だけが
好きだった

俺が好きなのは
優...お前だよ



私もお兄ちゃん
大好きだよ?

わ

.....?



こんなところ
見られたら...

きつともう
お兄ちゃんとは
暮らせなく
なっちゃう...!!

お兄ちゃんに
悪戯したら
怒られたから
ちよつと喧嘩に
なっただけ!

涼! 優!
聞いているの!?

聞いてるっ!!
何でもない!!

涼
そうなの?

.....

きゅん...
きゅん...

...仲良く
しなさいよ

.....ごめん

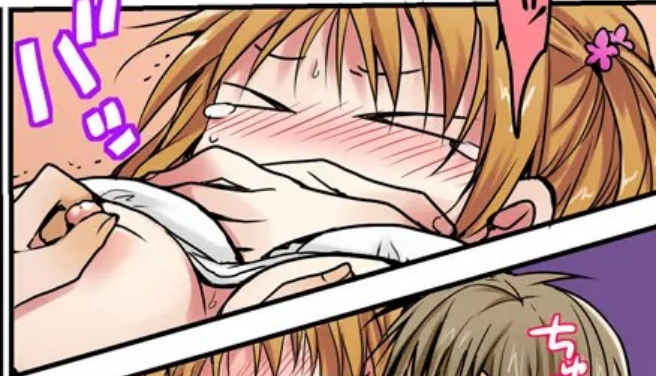
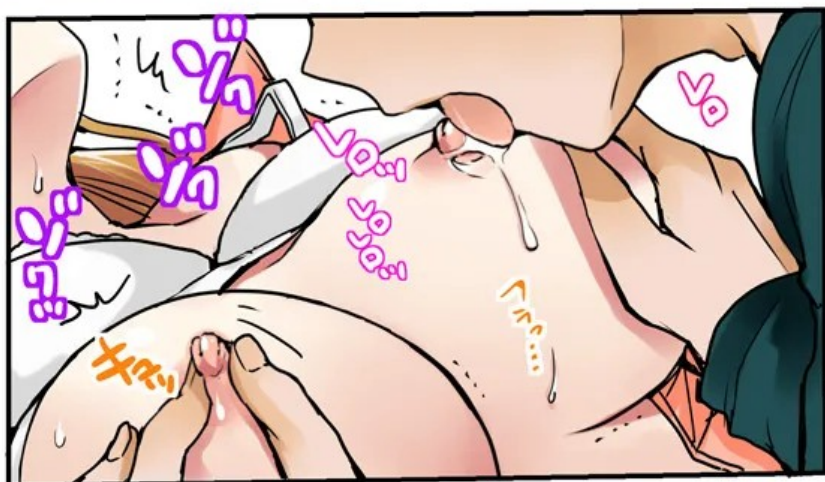
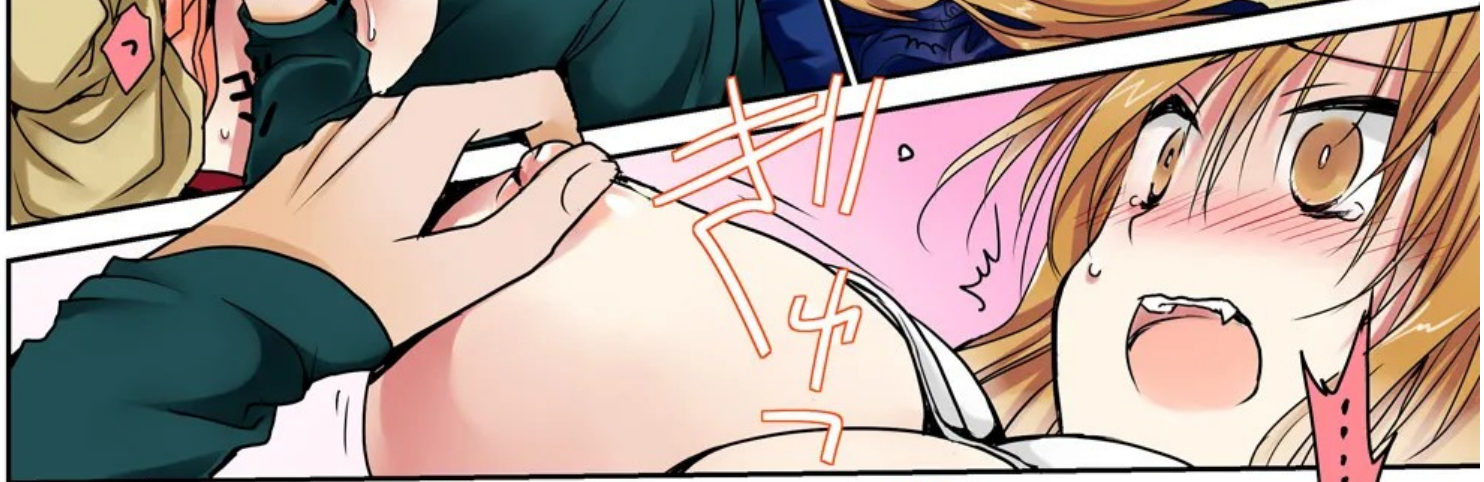
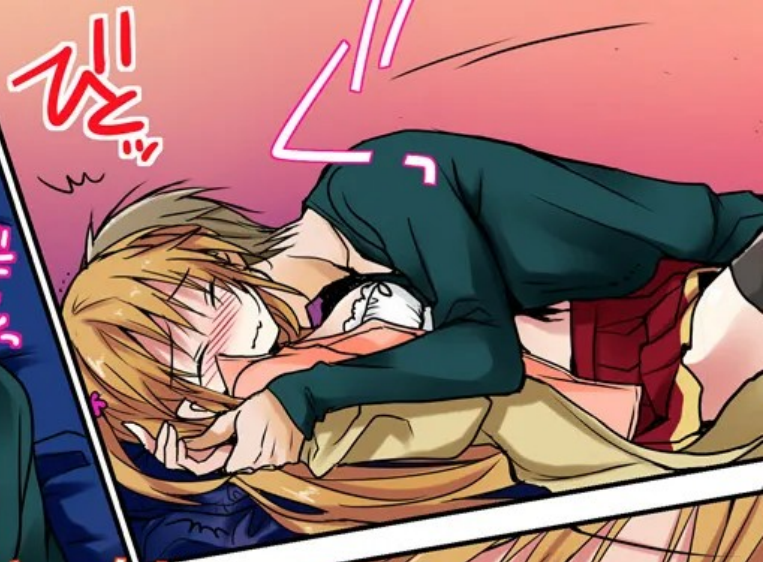
ちよつと
おとなげない
怒り方した

もう
仲直りするから
大丈夫

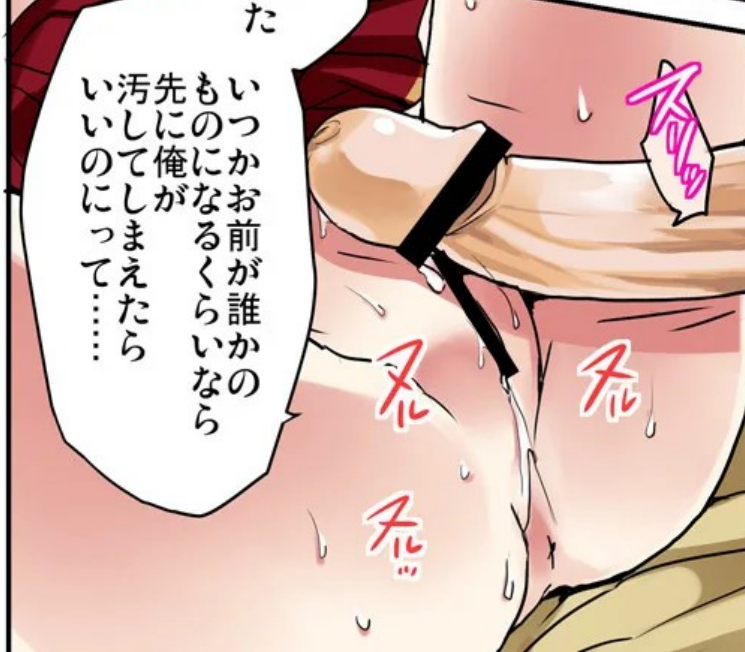
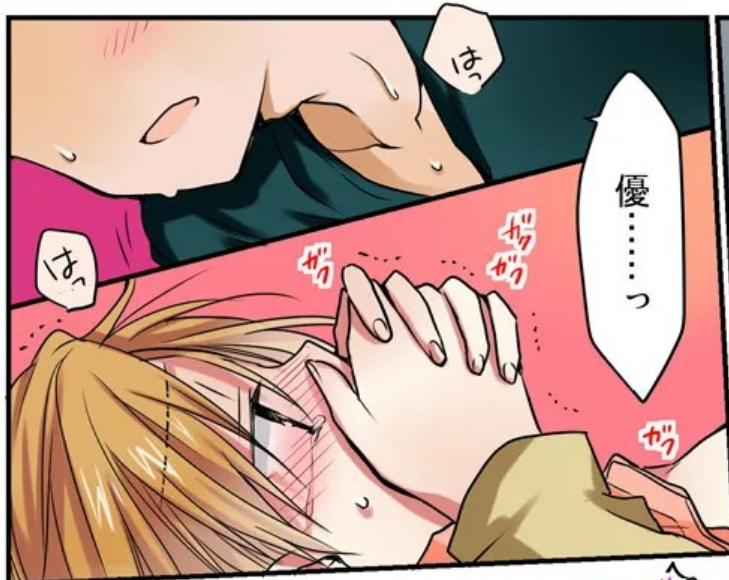
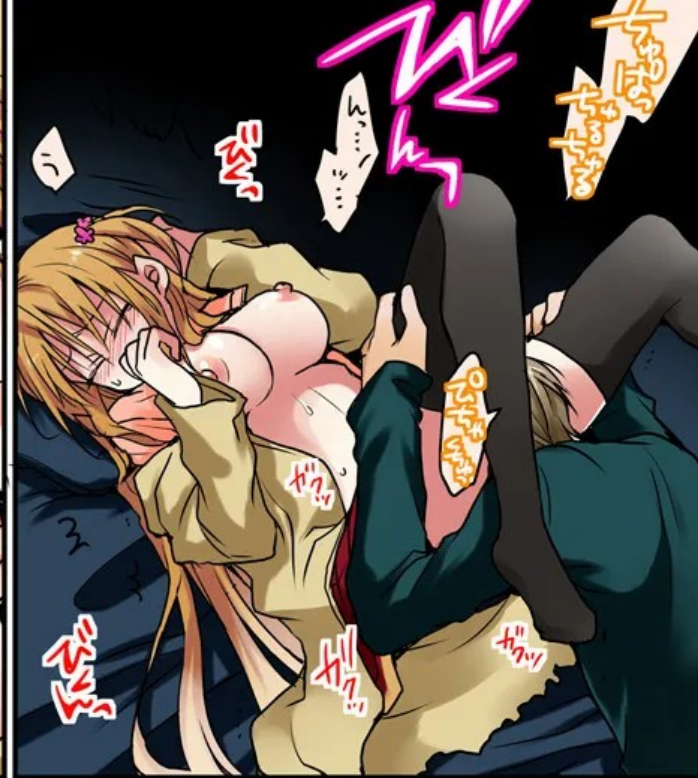
.....
何で母さんに
助けを
求めなかったの?

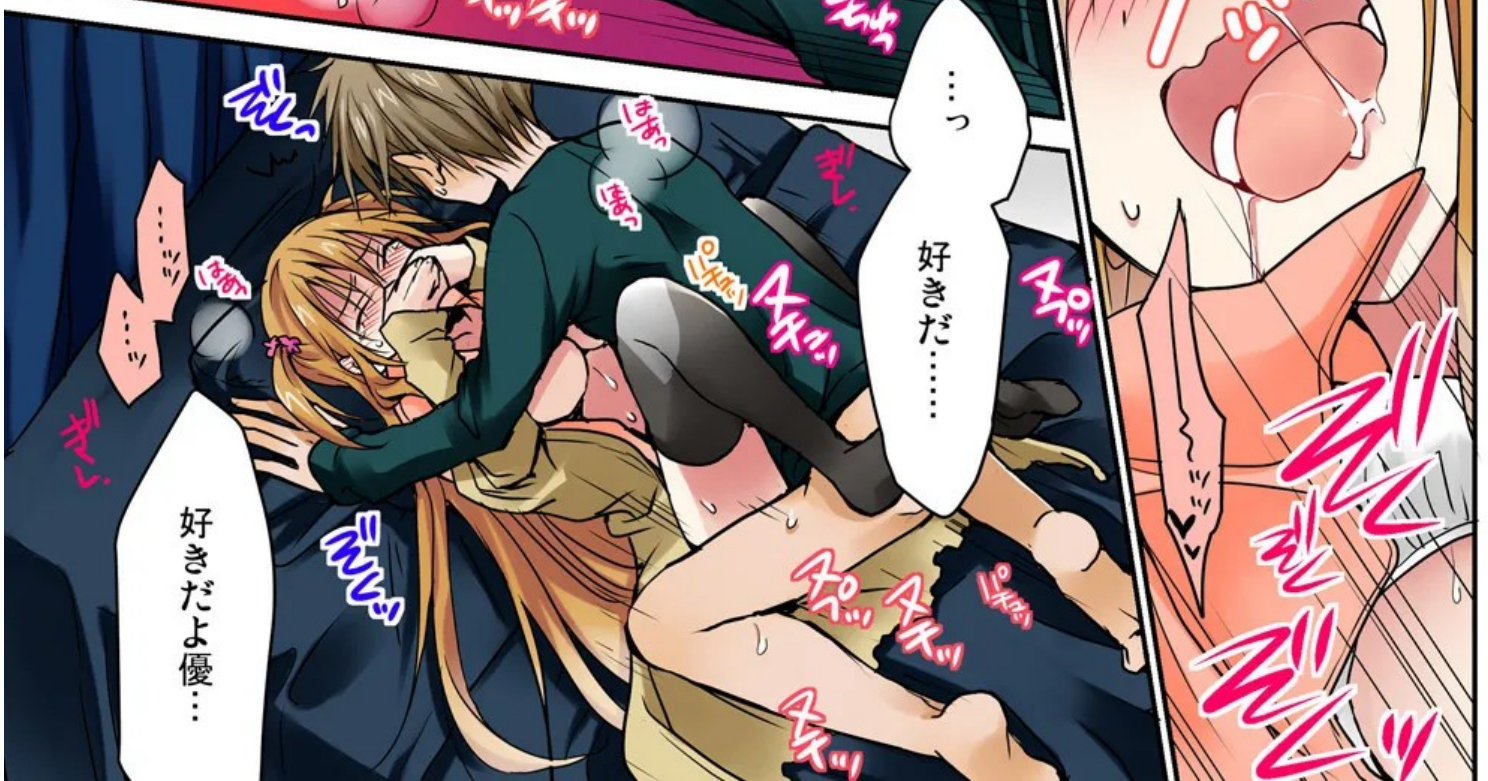
じょ...
冗談だよ
お兄ちゃん...
ちよつと
だからだよ
だけだよ?





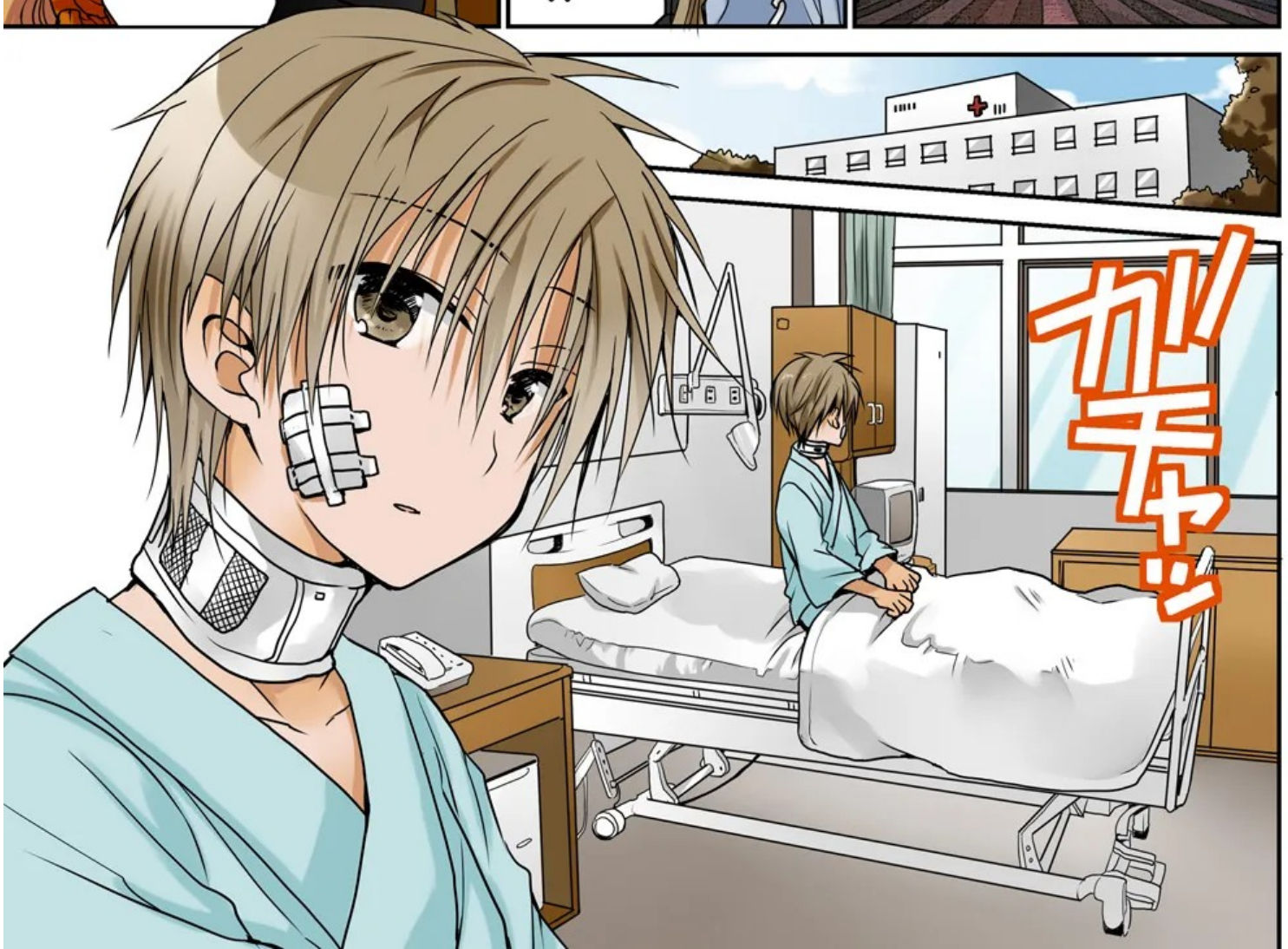


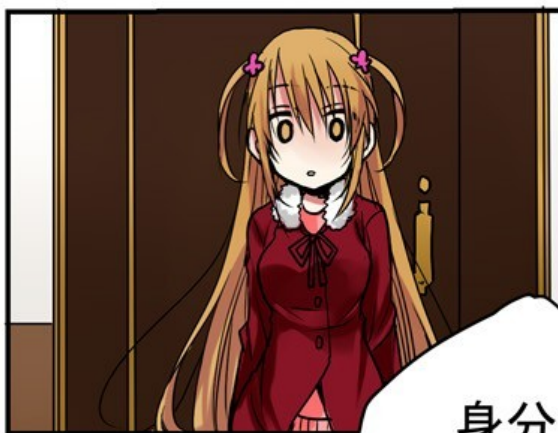
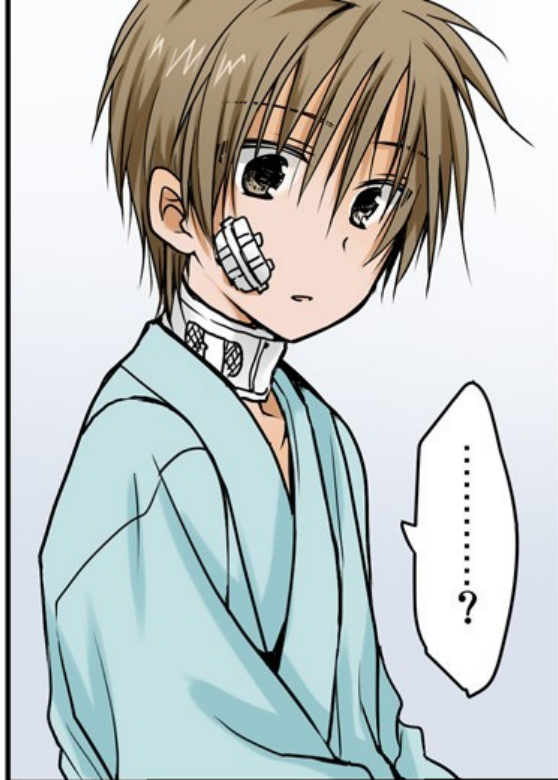






それから
何日たつても
お兄ちゃん
帰ってこな
かった





お兄ちゃん
は記憶喪失に
なっていた

あの夜、妹をハメた 感触だけは覚えてる。

第1話

ひびき滯

©ミリオン出版

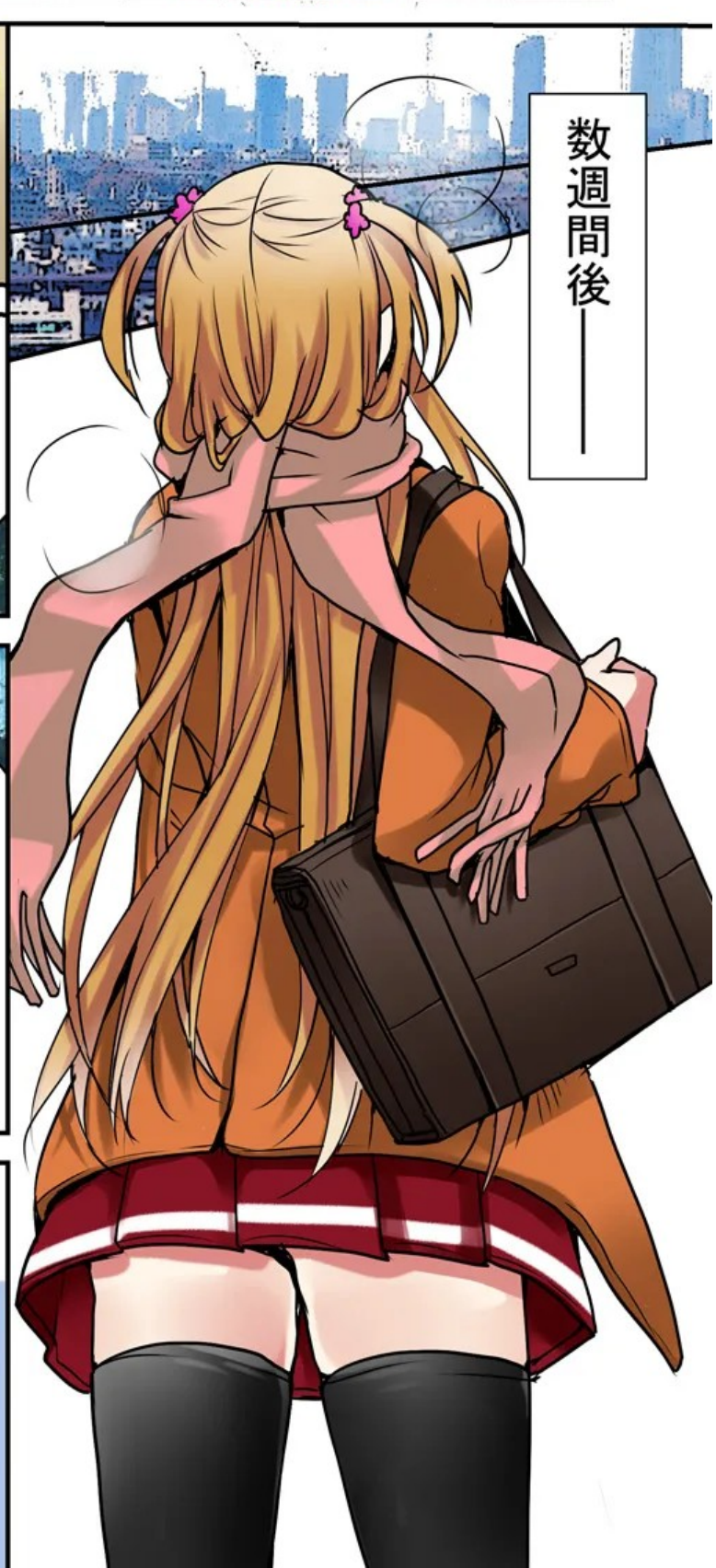
※本書の一部あるいは全部を無断で複写転載することは法律で禁じられています。

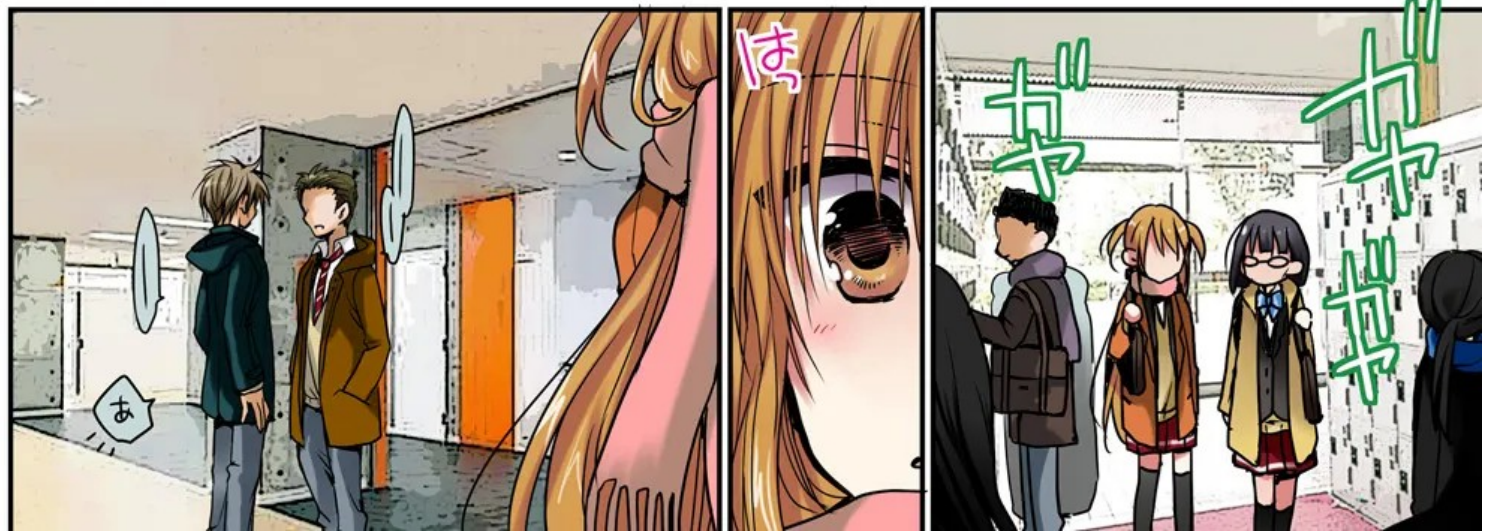
ひびき

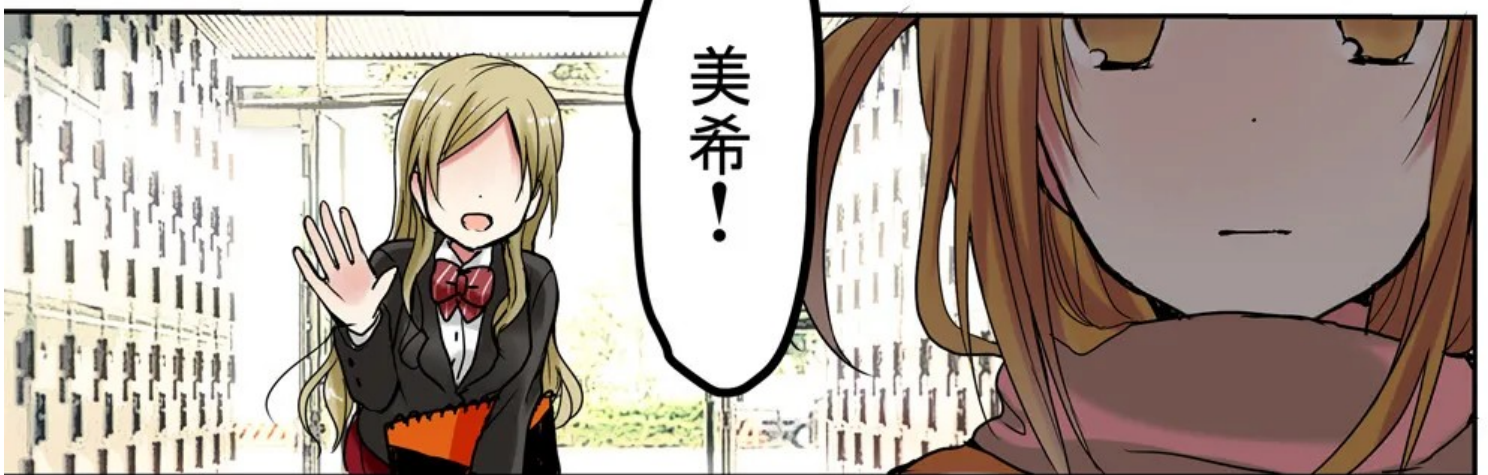
あの夜、
妹をハメた
感触だけは
覚えてる。

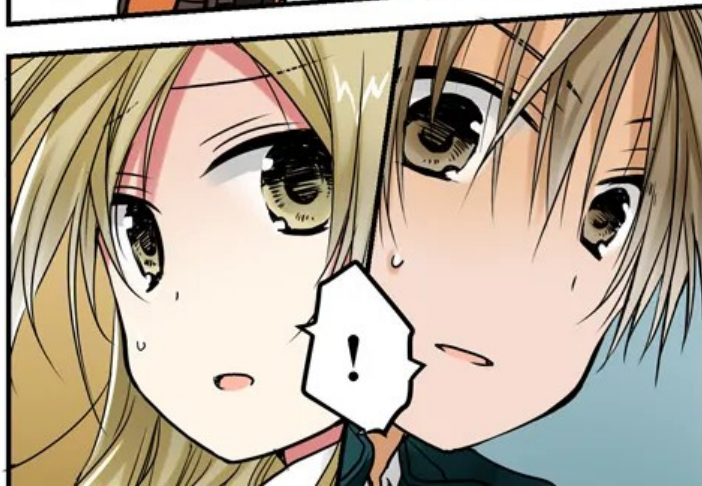
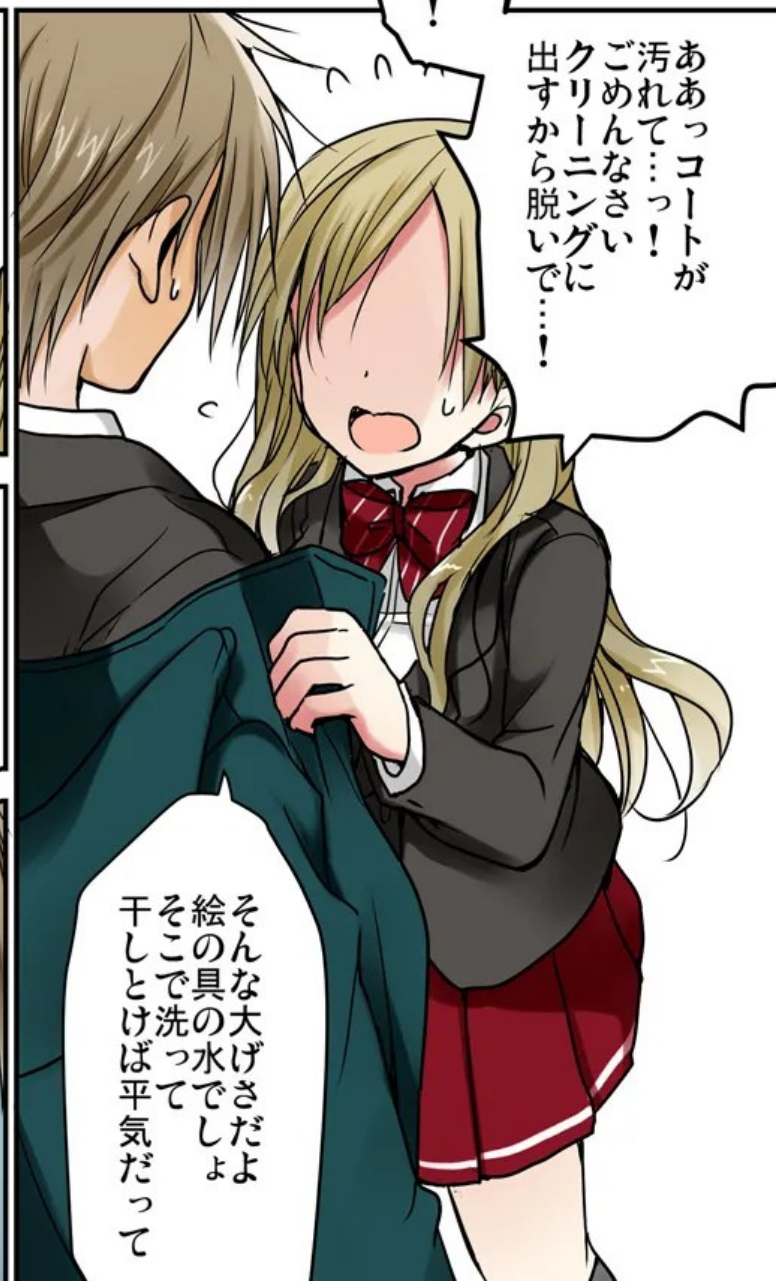
第2話

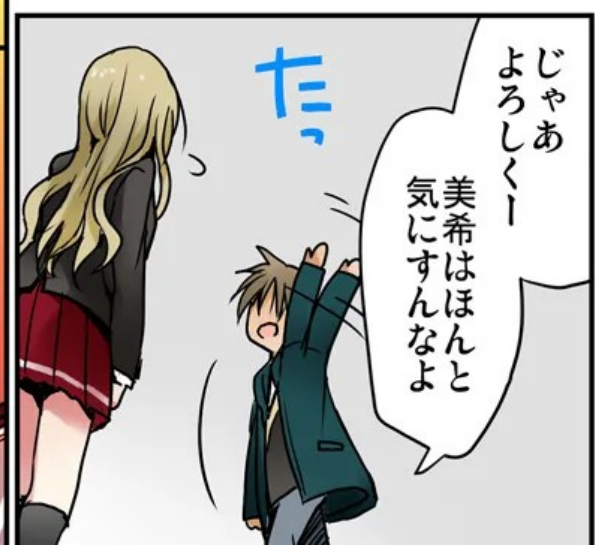
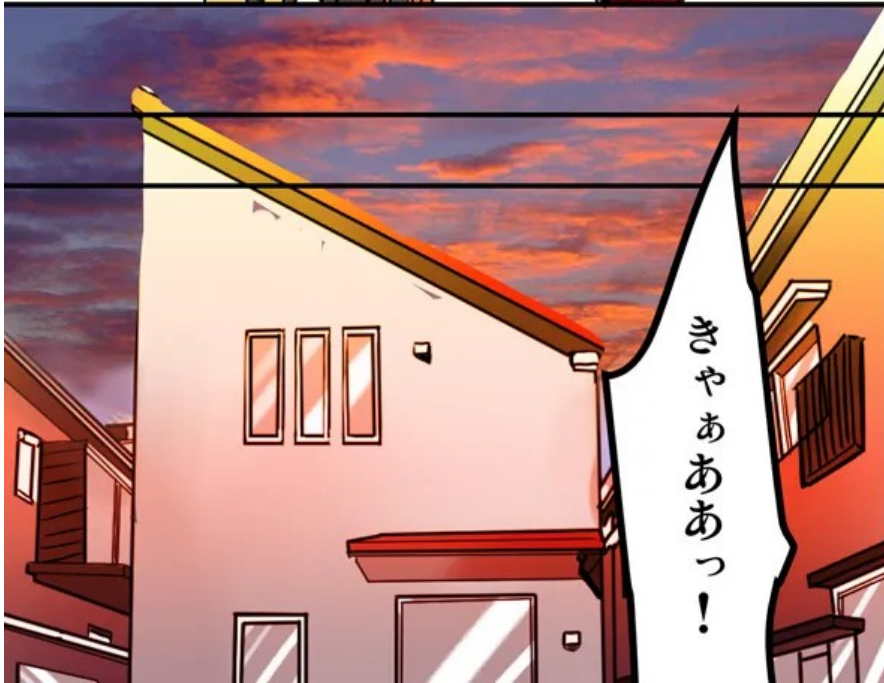
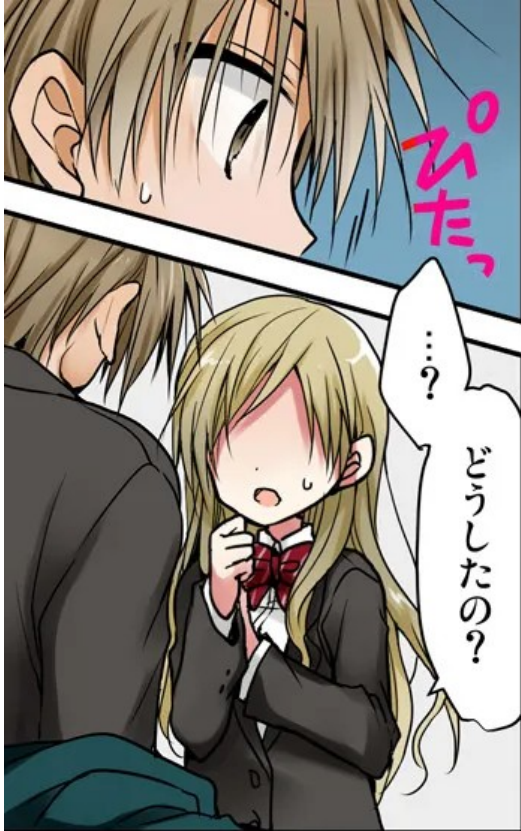














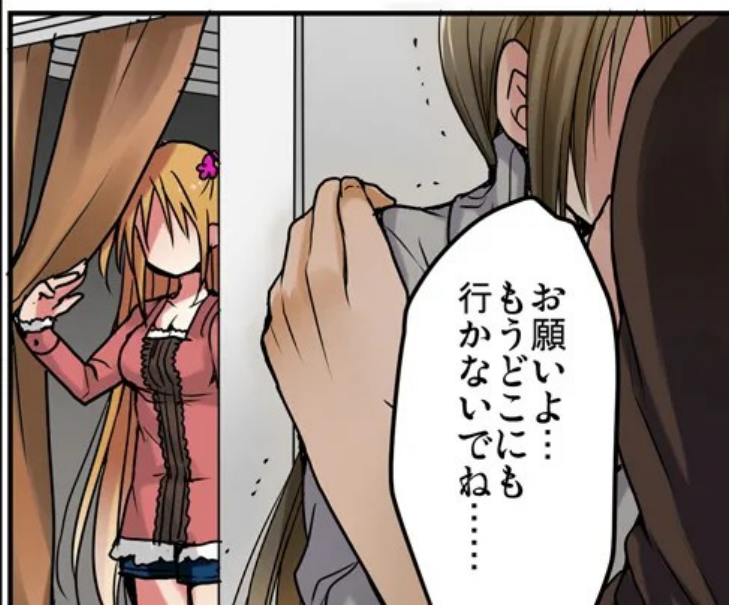
「俺は」
大丈夫だよ
自殺なんて
考えて
ないから



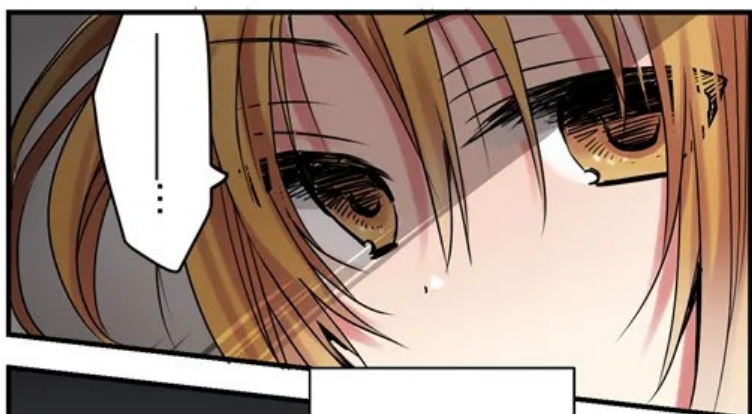
絶対母さんを
悲しませるような
ことはしないよ
だから安心して？

そう…
そうよね

ごめんね…
ごめんなさい



お願いよ…
もうどこにも
行かないでね…



その日の夕食は
母の嫌いな
玉ねぎの
生サラダがあった

母は何も言わず
黙って全部
たいらげた



……
何か用？



今日の夕食

だいたい
残してたけど
体調悪い？

それとも
嫌いなもの
があったのかな



はい

……あつ
ごめん
勉強してた？

別に平気だよ
もうほとんど
終わってるし

ガキ



おやつを
食べ過ぎちゃって
お腹いっぱいだった
だけだよ

せっかく
作ってくれたのに
残してごめんね

あ……いや
それならいいんだ

……話
ただけ？



？

いや……

えっと
……ん……

……みんなが
言うんだが

妹との関係が
前と全然違うって
今の俺に戸惑ってるんじゃないのか話しあえて

そうは言っても
俺には前のことなんて
分からないうし
普通にしている
つもりなんだけど
優はどうか
思ってるのかなって……

前とまったく同じは無理だとしても近づけるように努力したいと思ってるんだ

……
前のわたしはお兄ちゃんに甘え過ぎてたの

それが原因でお兄ちゃんを追い詰めたから

今度は甘え過ぎないようにしようって思っただけだよ

今のお兄ちゃんに不満があるわけじゃないから心配しないで

そっか良かった

邪魔して
ごめんやな
おやすみ

おやすみー

あつても
甘えたい時は
甘えていいから
兄妹なんだから

うん！
ありがとう
お兄ちゃん

お兄ちゃん

お兄ちゃん

お兄ちゃん

お兄ちゃん

髪を撫でて

抱きしめて

キスをして

舌を絡めて
息が出来ないほど
必死に私を求めて

全身が
痺れるような
あの感覚を
もっともっと
教えて欲しいの

寂しいよ

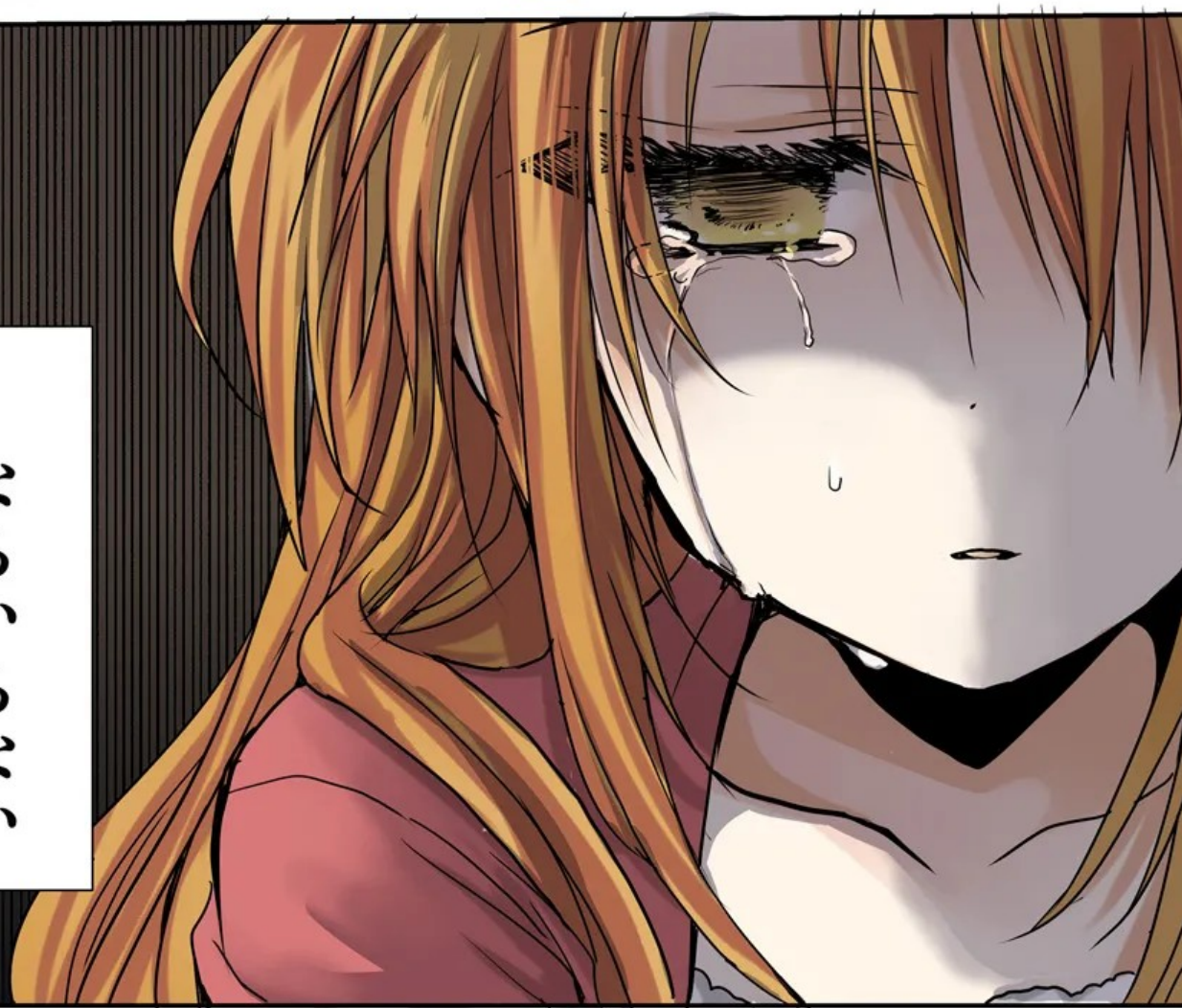
せつないよ

あの日の熱が
今も冷めないの
体がお兄ちゃんの
求めて疼いてるを

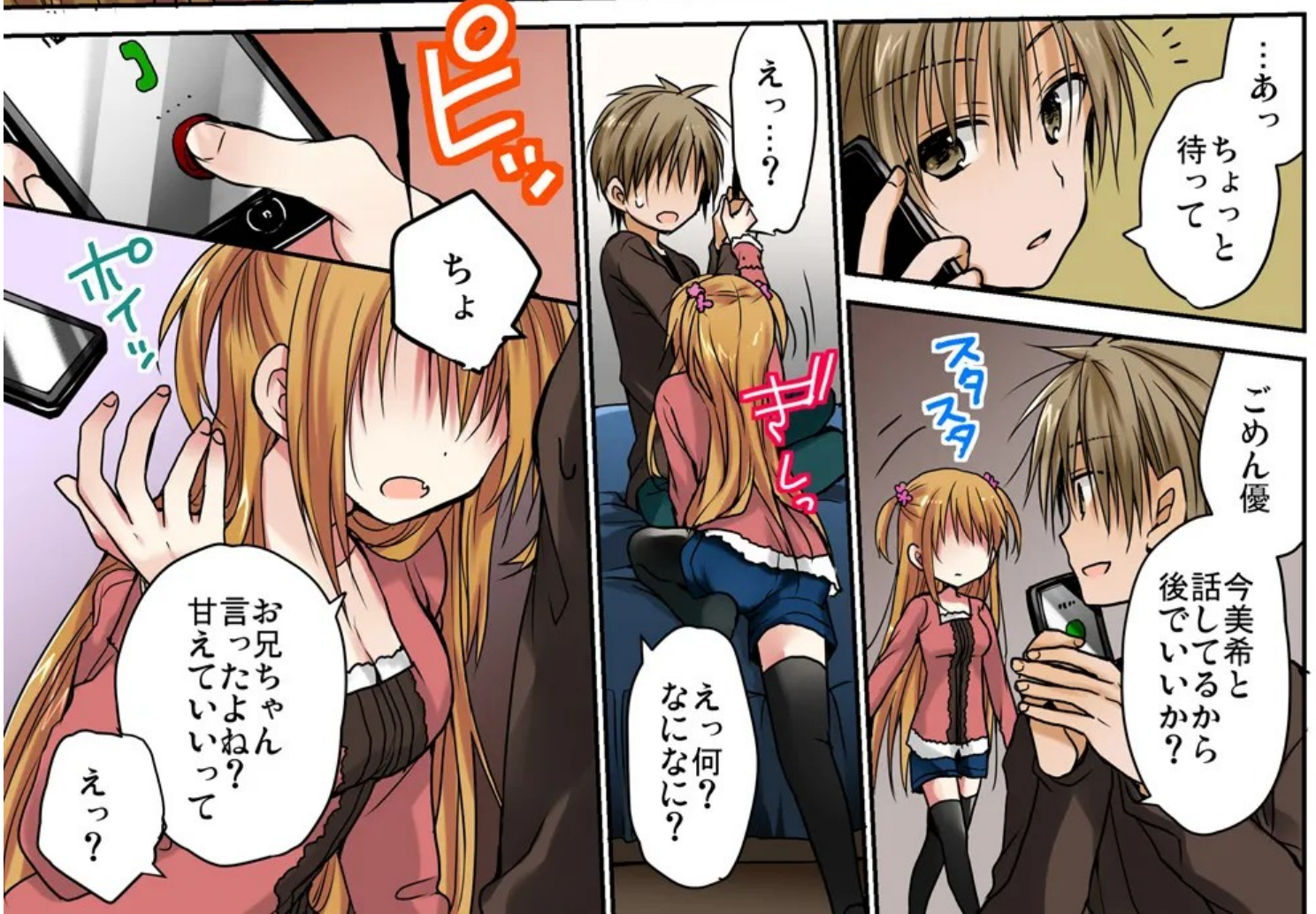
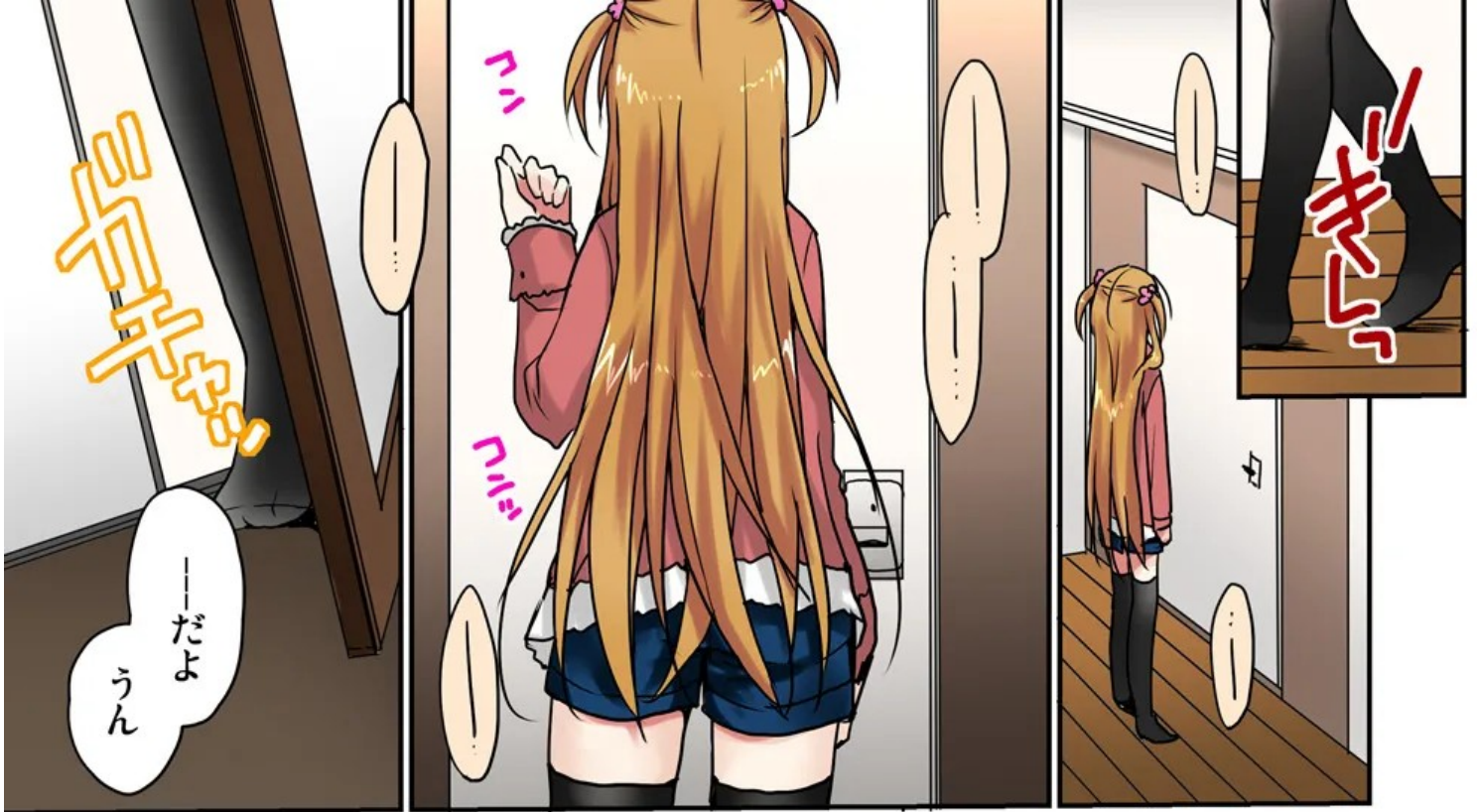
ねえ
これが「普通」なの？
こんなにも
痛くて苦しいのが
千切れそうな心を
抱えて生きることが
「普通の兄妹」なの？

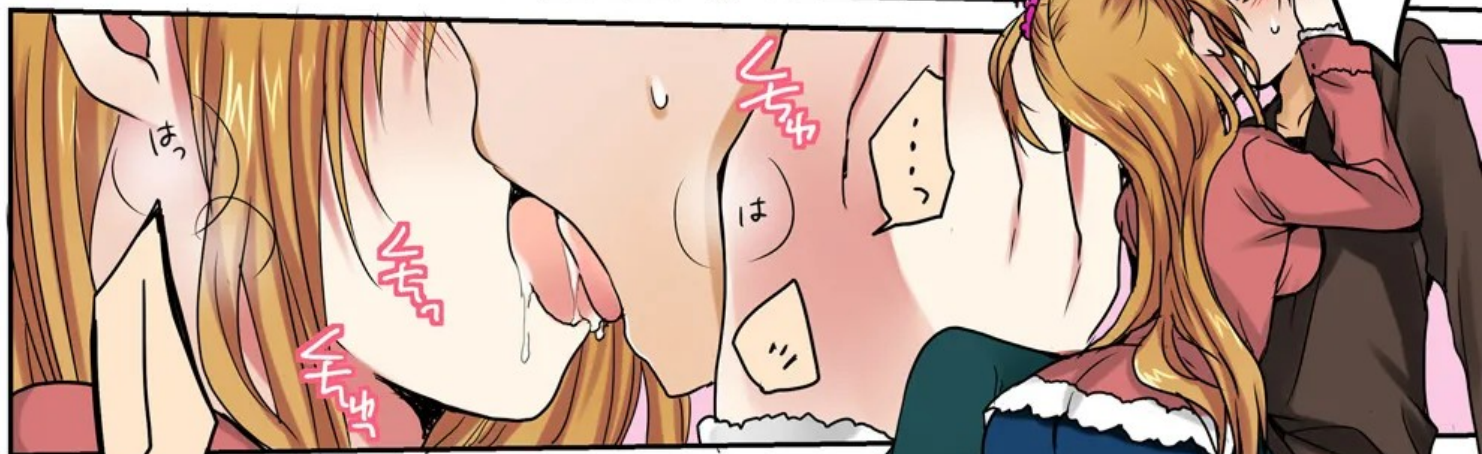
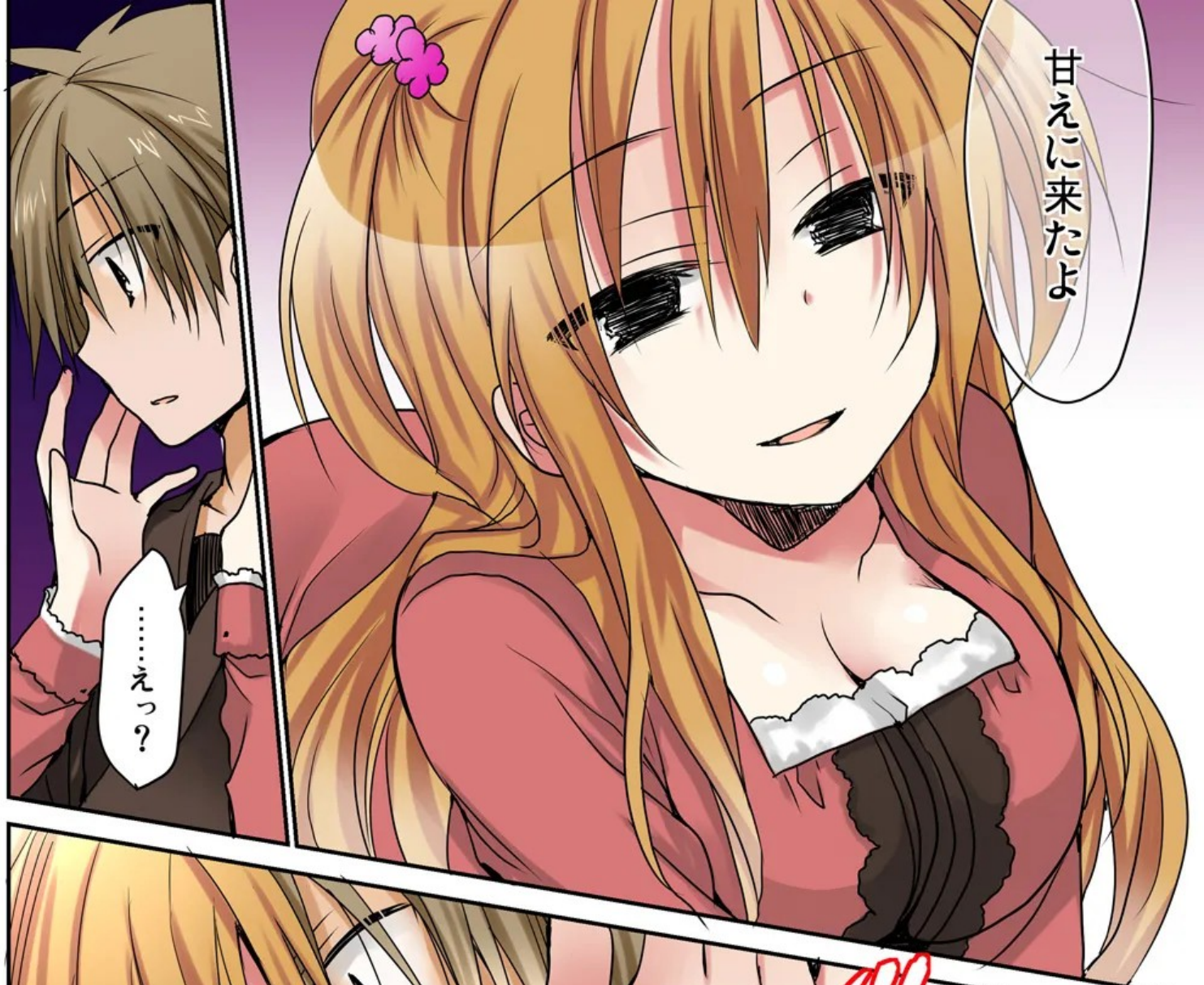


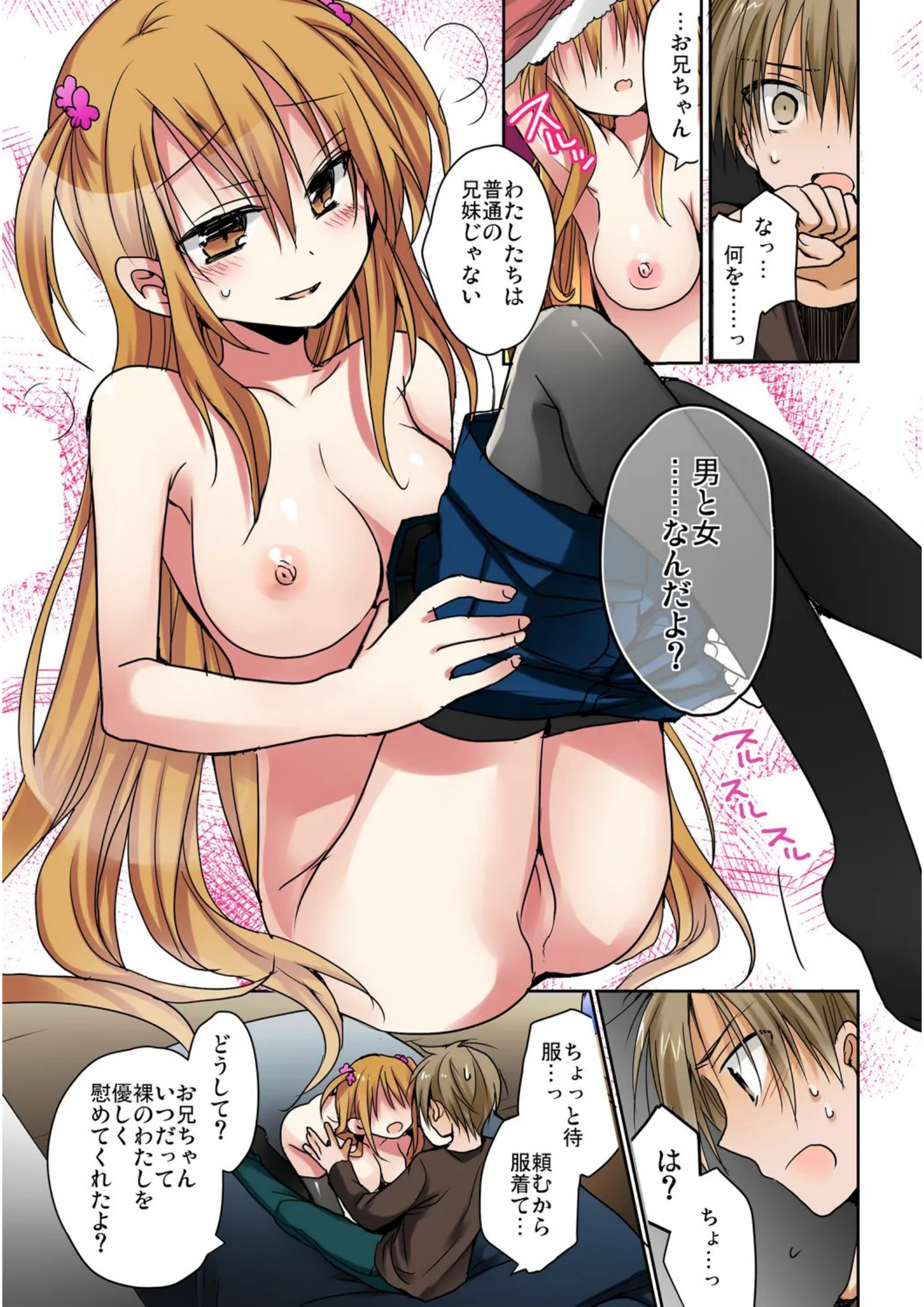
…ならいい



わたしは普通じゃなくていい







…お兄ちゃん

なっ…
何を…っ

わたしたちは
普通の
兄妹じゃない

男と女
……なんだよ?

スル
スル
スル

どうして?

お兄ちゃん
裸のわたしを
優しく
慰めてくれたよ?

ちよつと待
服…っ

頼むから
服着て…

は?

ちょ…っ



……う……
嘘だろ……



固くなった
乳首を爪で
チクチク
いじめるのが
好きだった



おっぱい
優しく
舐め回した後



毎日いっぱい
優しく
かき回して
くれたから



最初は
痛かったけど



そこに
お兄ちゃんの
太い指が
滑りこむの



そしたらね
わたしの子宮が
キュンってな
じわつときて

嘘じゃないよ？



もうこんなに
ぐしょぐしょに
なってる



……ほら



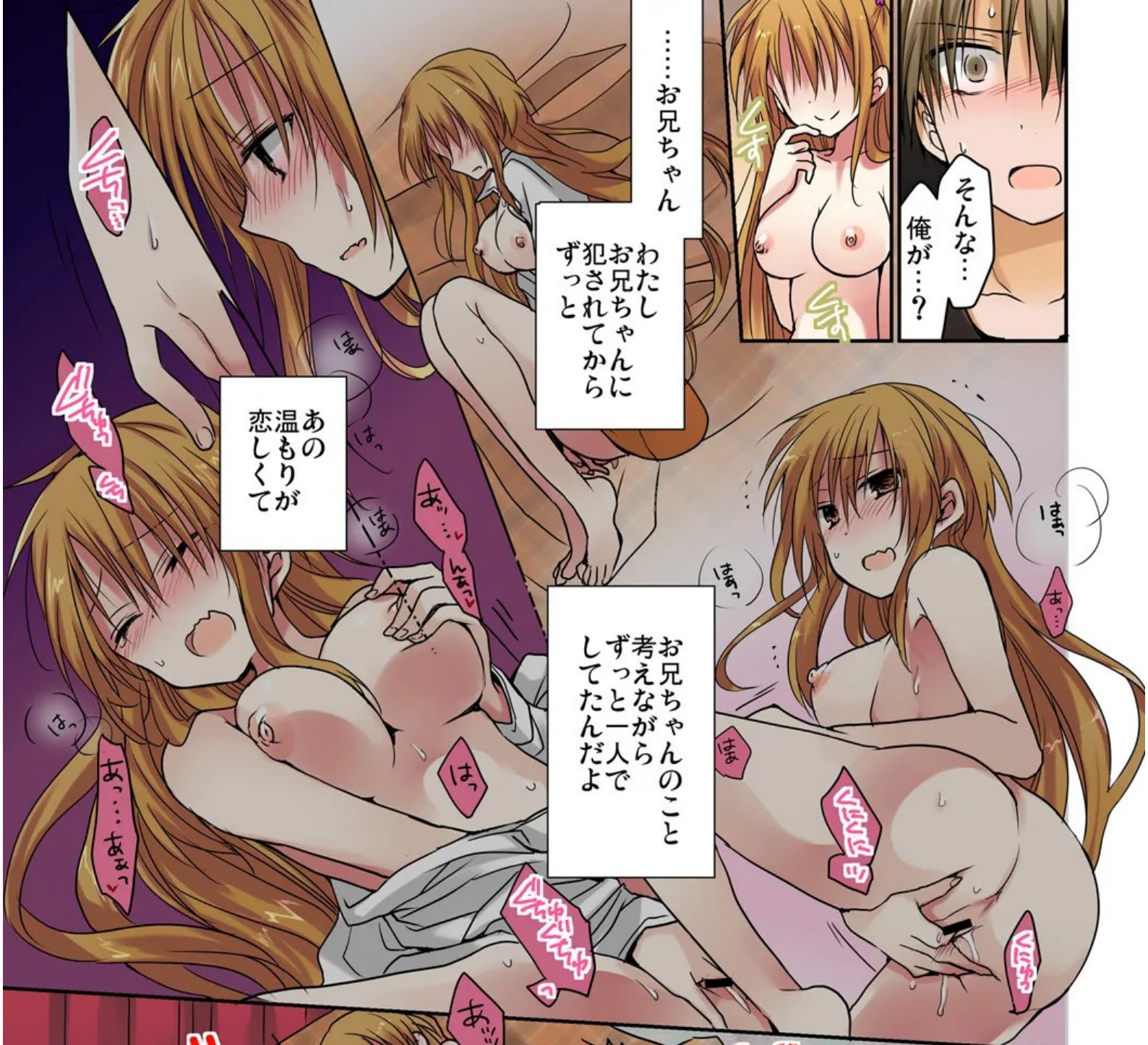
そんな…
俺が…？

……お兄ちゃん

わたし
お兄ちゃんに
犯されてからに
ずっと

あの
温もりが
恋しくて

お兄ちゃんのこと
考えながら
ずっと一人
してたんだよ



それは
気持ちよくて

どうしようもなく
虚しくて

お兄ちゃん…

はっ

はっ

好き…

わたしもう
お兄ちゃんの望む
妹には戻れない

いつもみたいに
貫いてよ...

わたしのこと
めちやくちやに
してよおっ...!!

なに...言って...

滅茶苦茶だ
何だよそれ

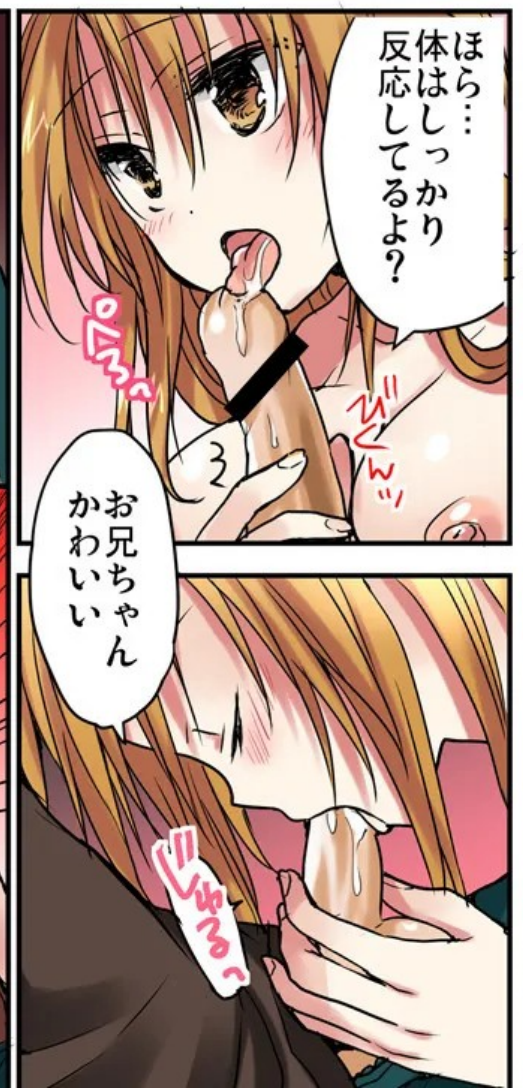
無理に
決まってる
だろ...

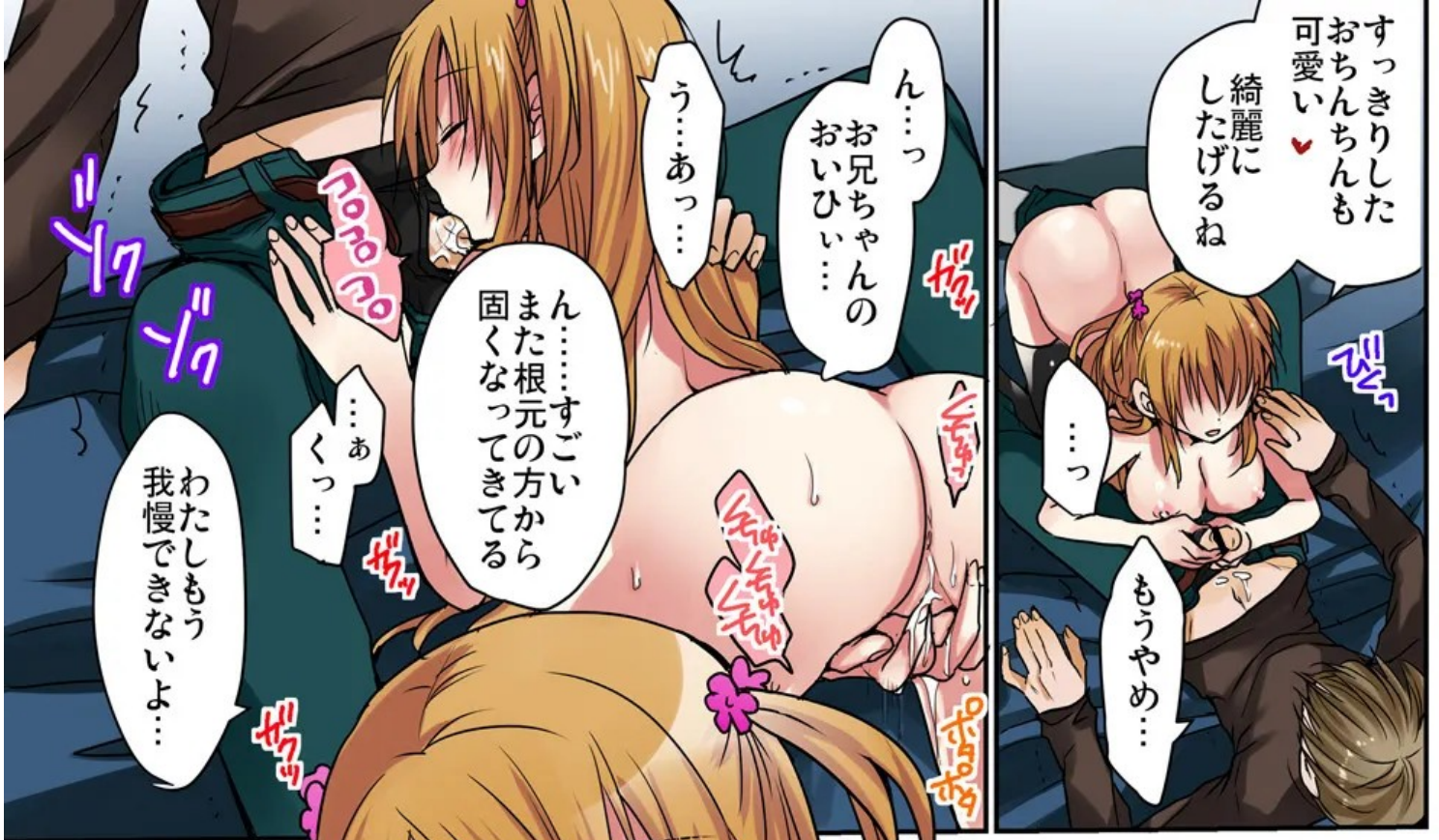
妹としてなんて
頭おかしいとか
思えないし

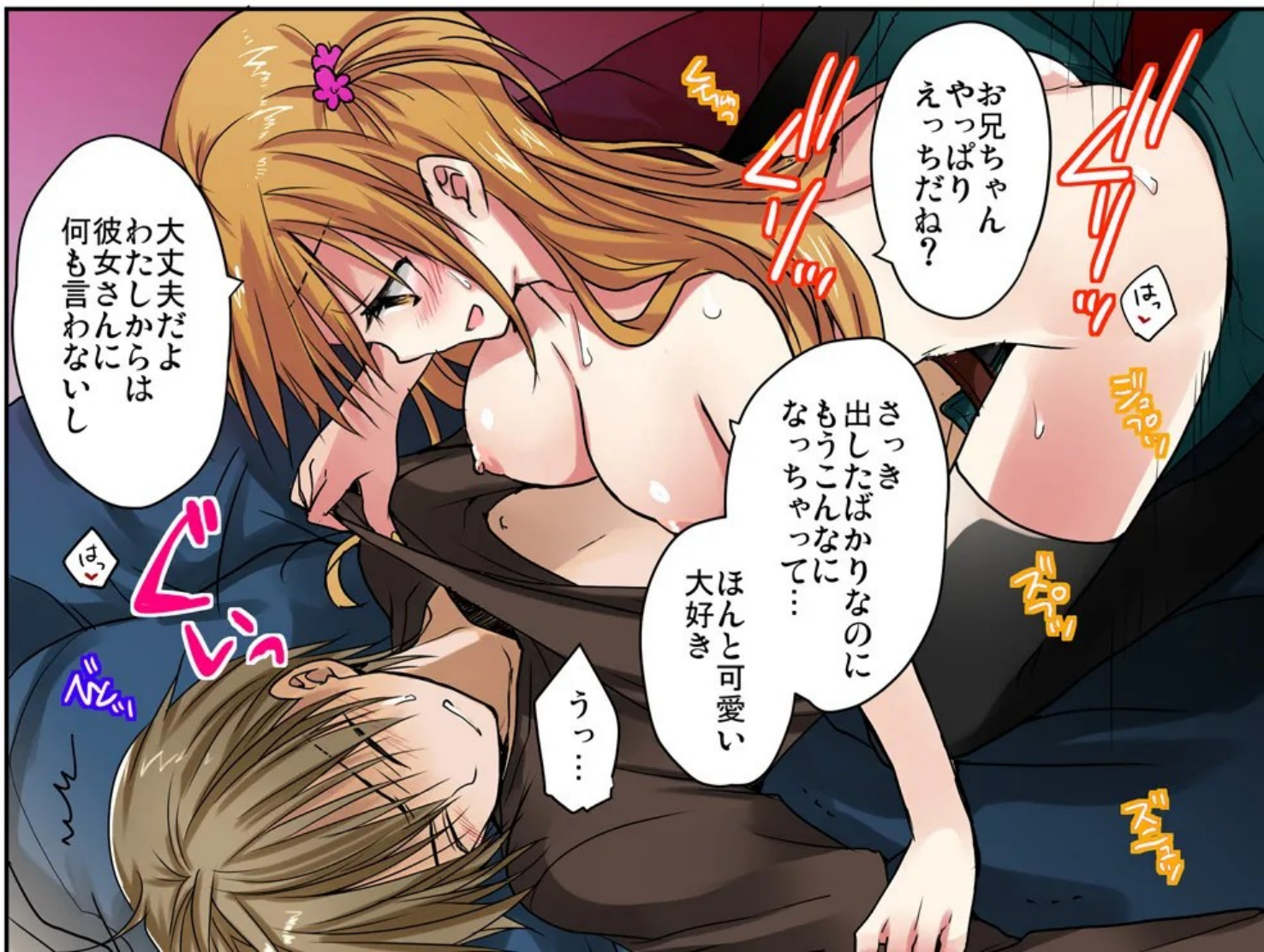
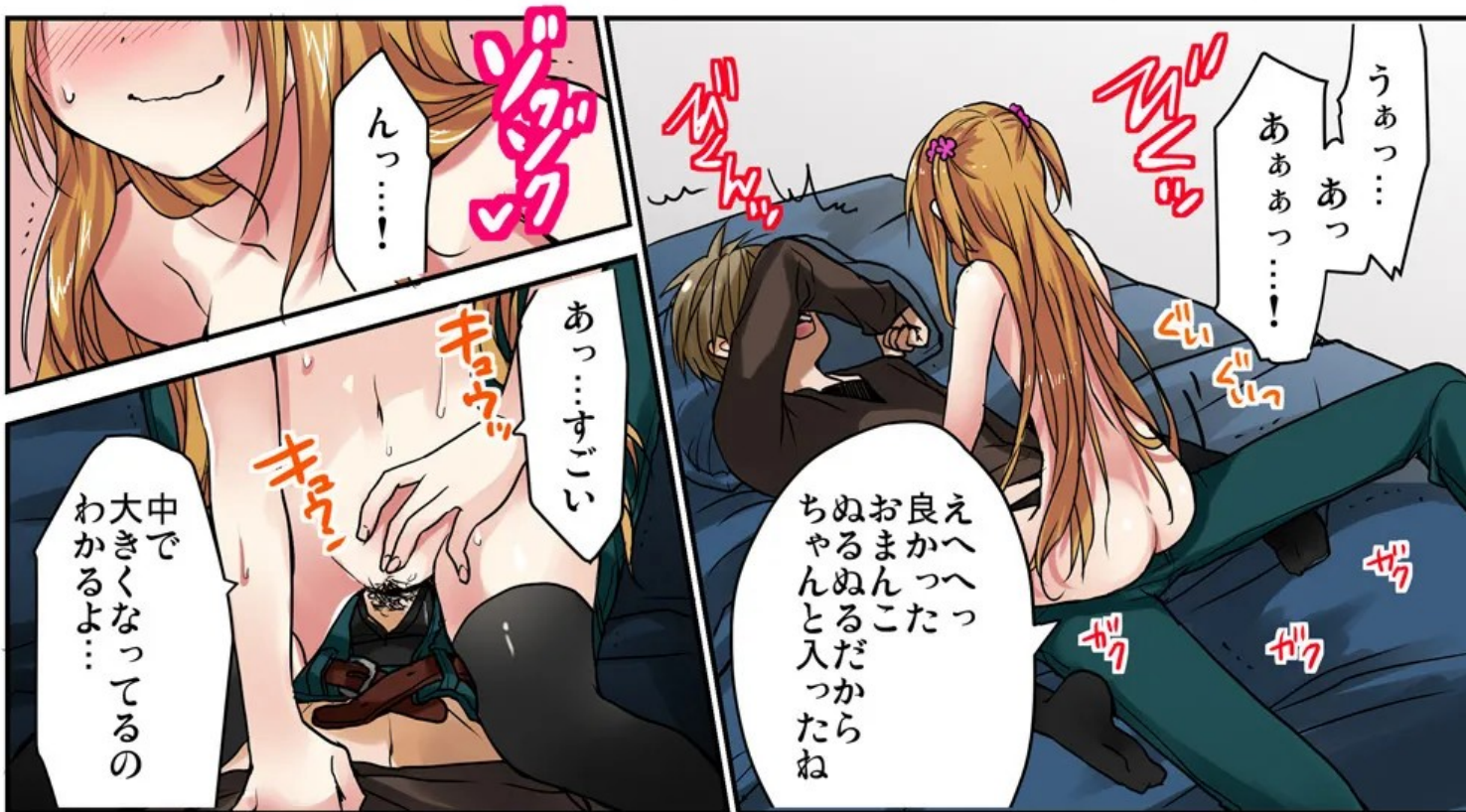
俺には
彼女なんて
いないだ

前の俺が
どんな最低な野郎
だったかなんて
知りたくない...

優には
悪いけど
今の俺は
違うんだ...!!











…おかえり

わたしだけのお兄ちゃん

は

は

はっ…

はっ…

きゅん

きゅん

きゅん

きゅん

きゅん

あの夜、妹をハメた 感触だけは覚えてる。 第2話

ひびき滯

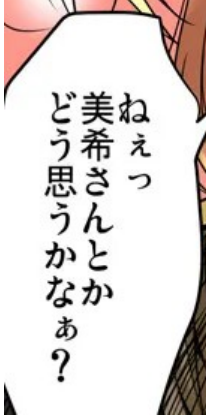
©ミリオン出版

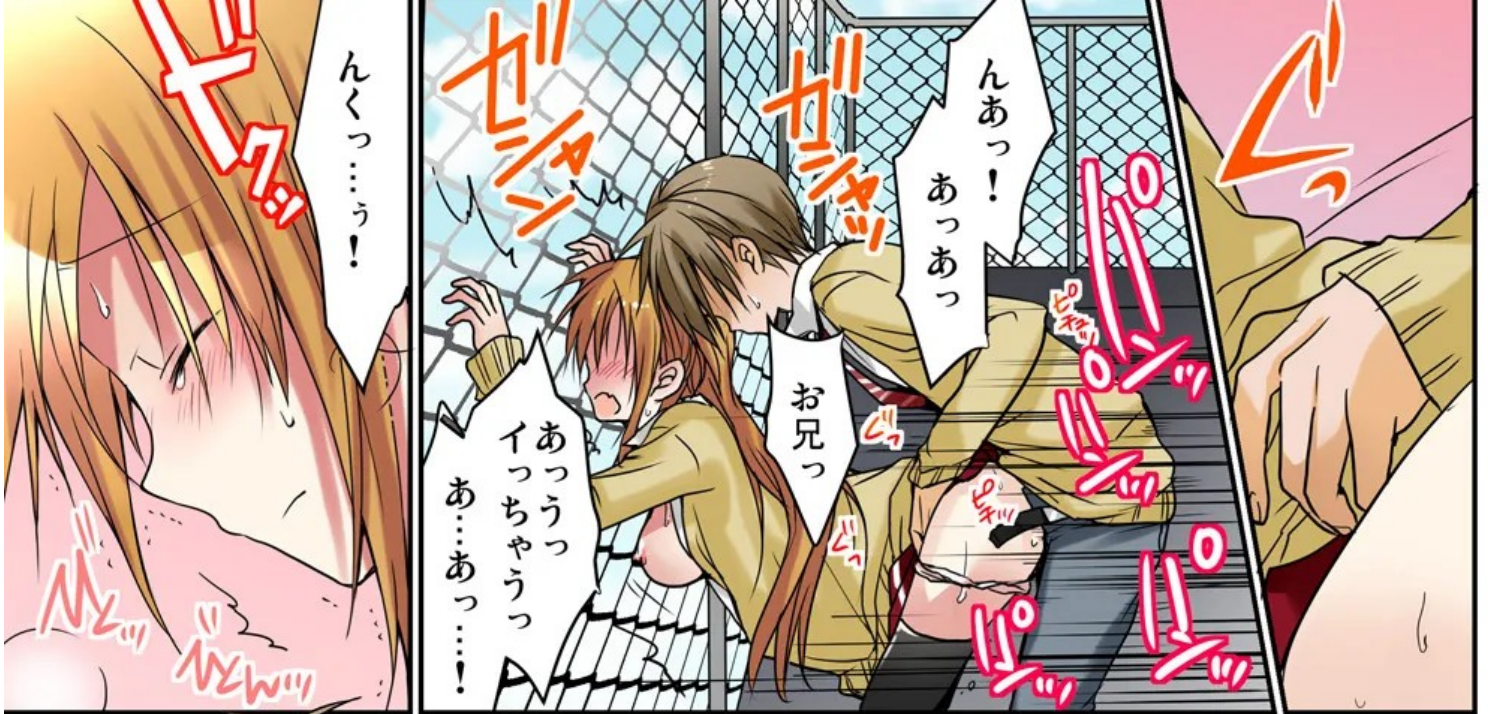
※本書の一部あるいは全部を無断で複写転載することは法律で禁じられています。

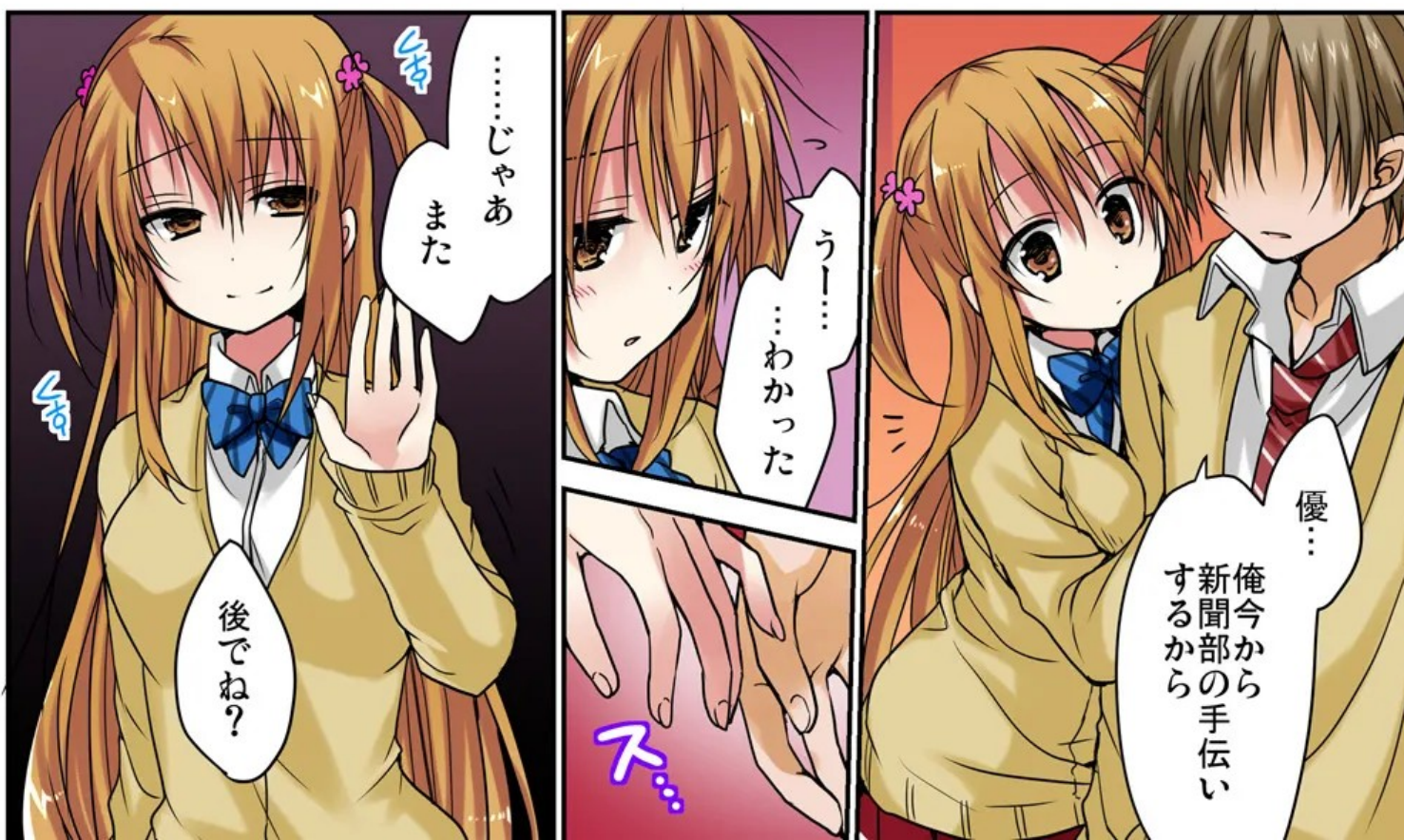
ひびき
零

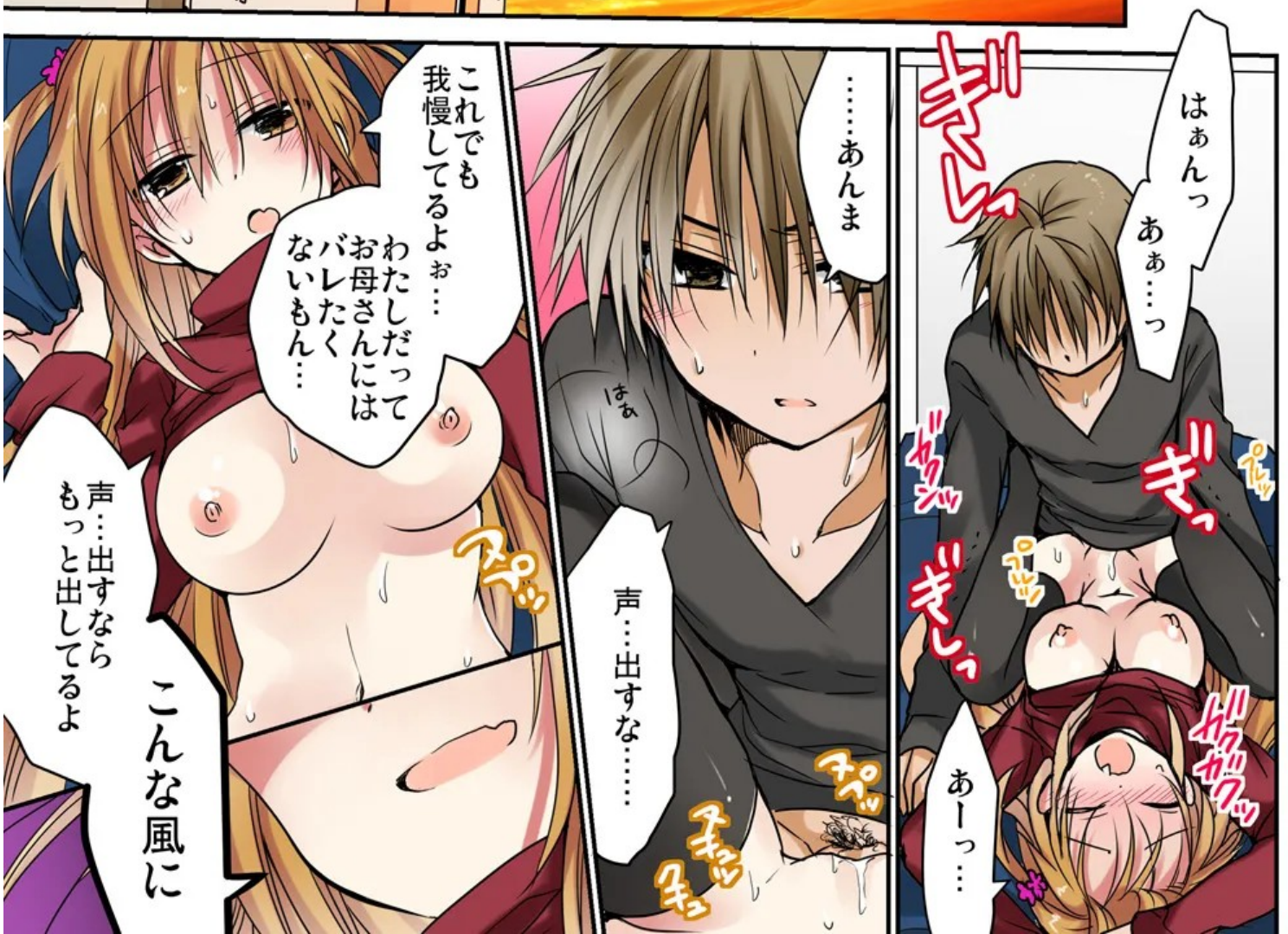
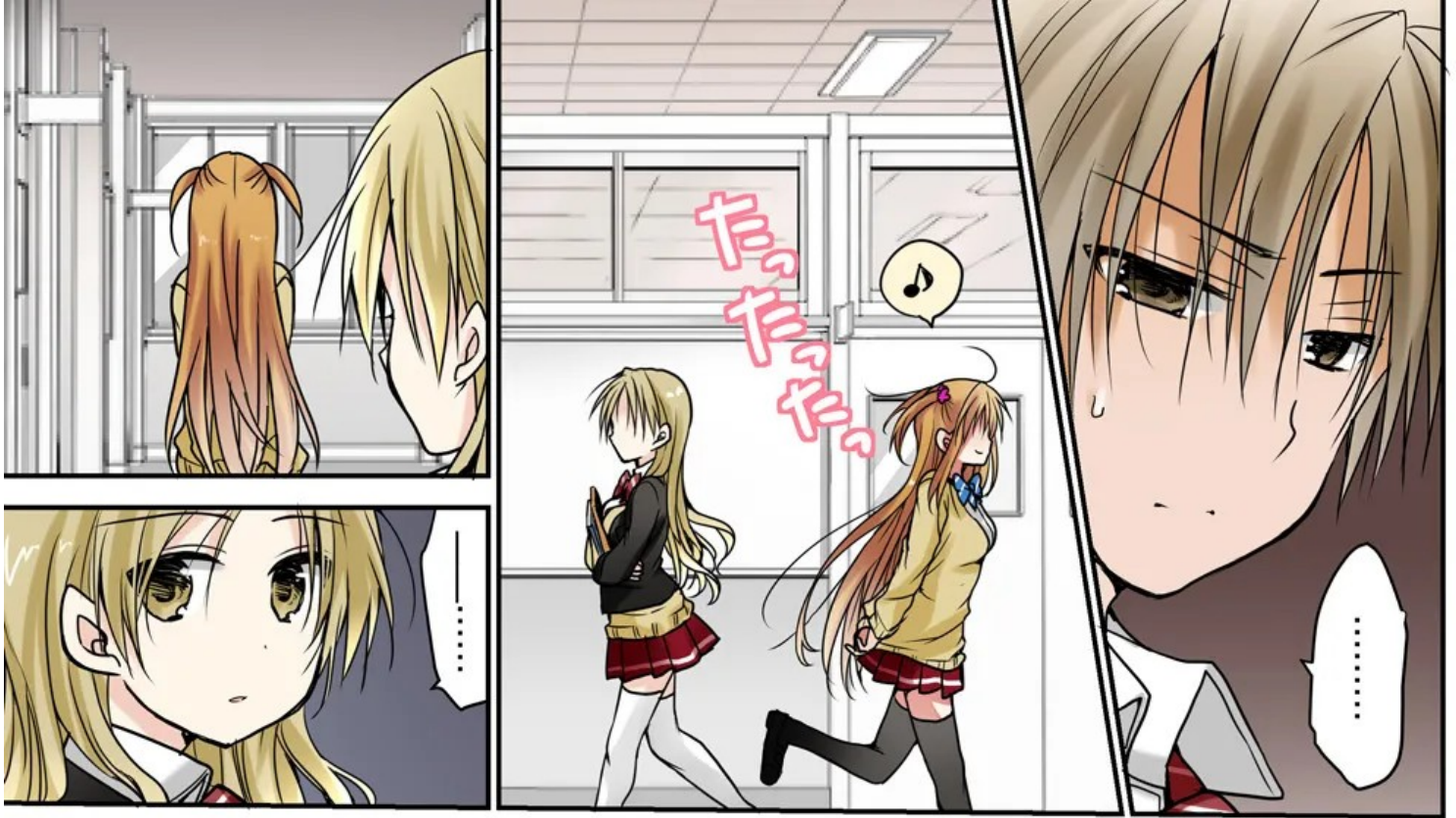
あの夜、
妹をハメた
感触だけは
覚えてる。

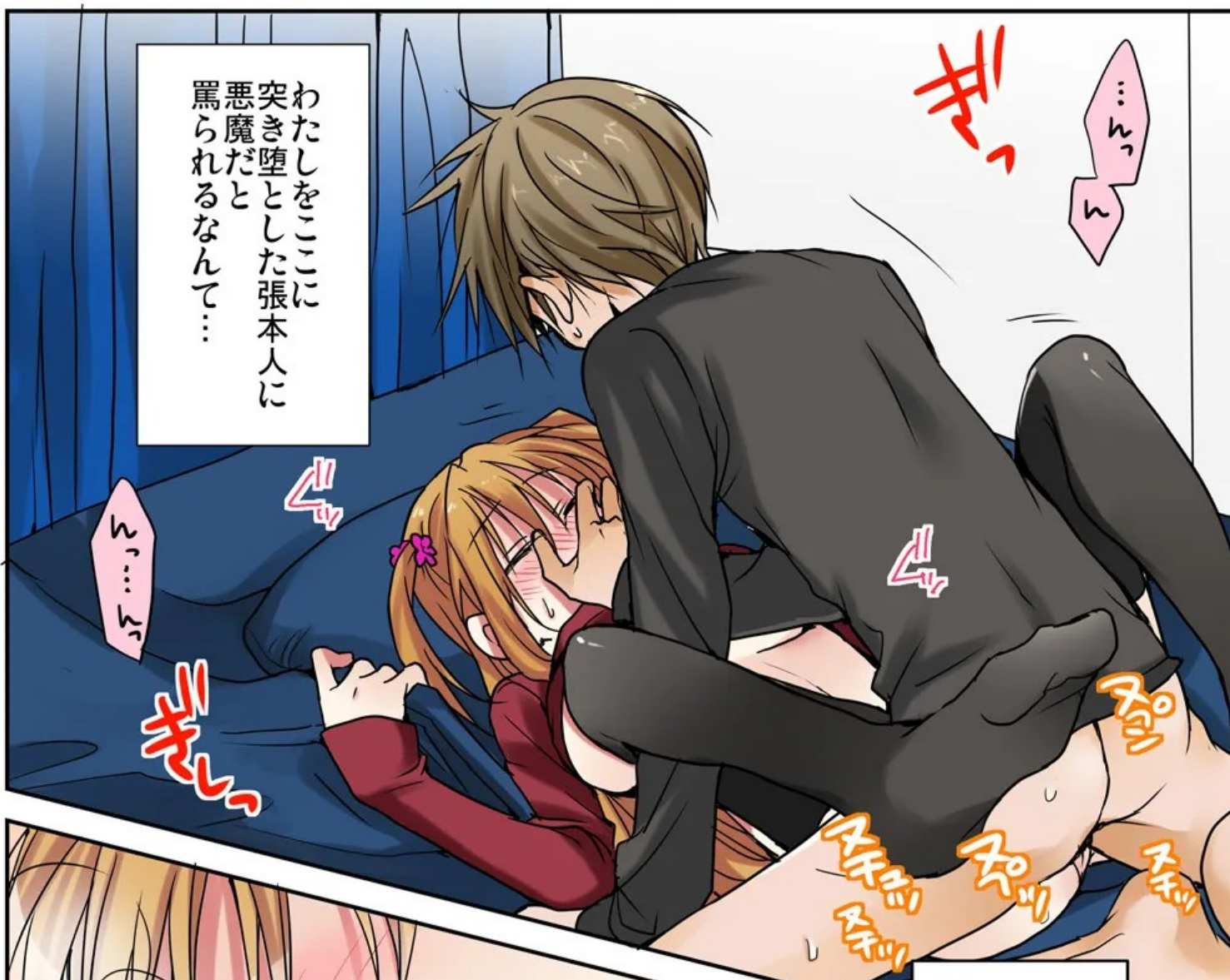
第3話













あれー

涼と優たそだ

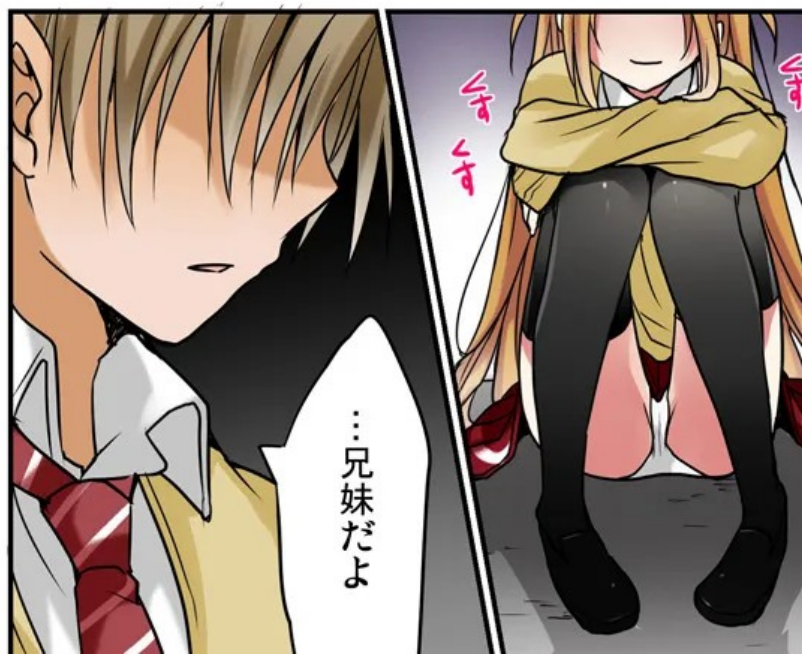
ん?

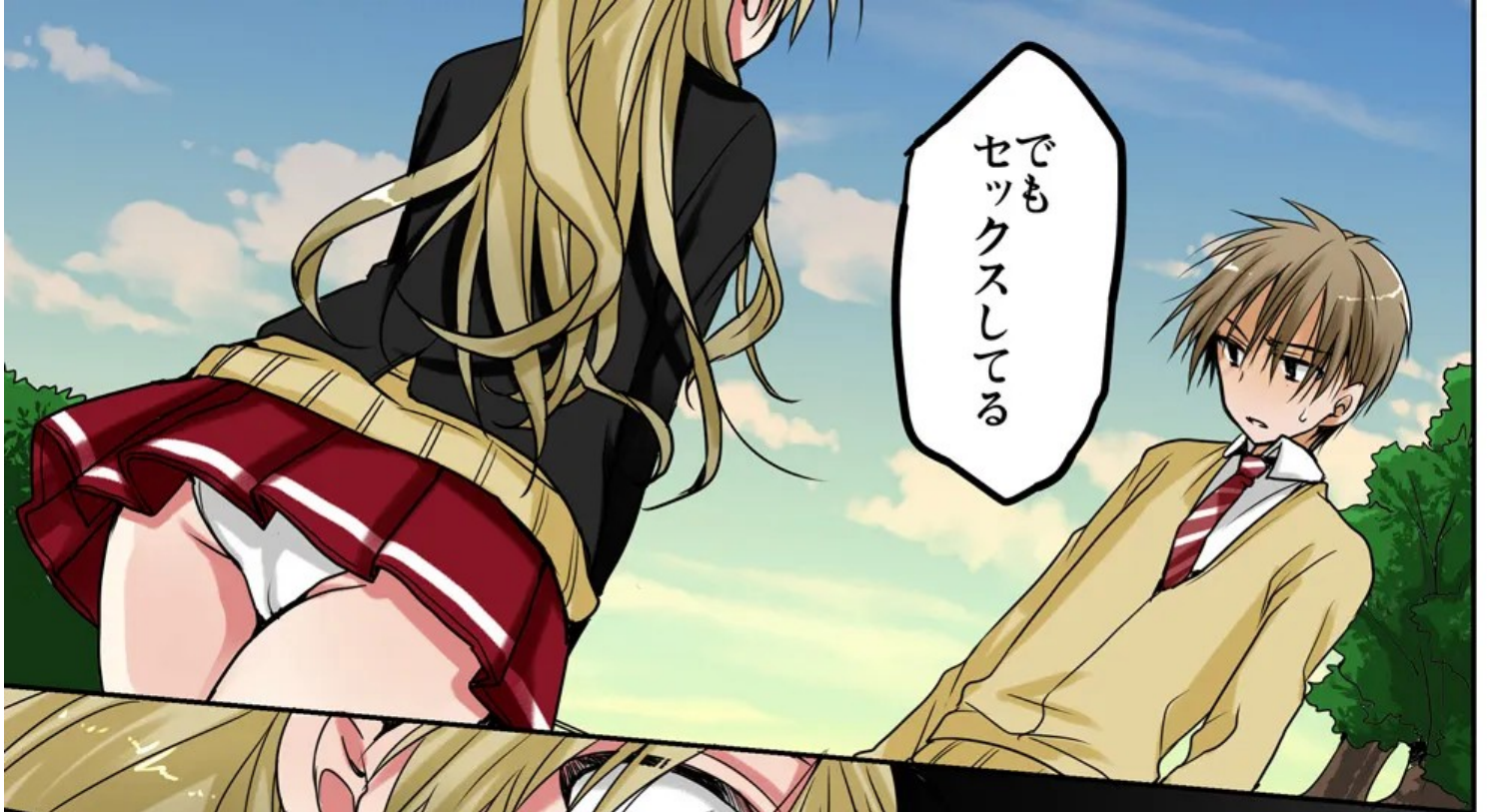
ん?

一時期離れたと
思ったなら
何か前より
仲良くなったよな

うーん!
仲良いつつーか
何か一線越えちゃった
感じするんだよねあ!

サッ...





でも
セックスしてる



110

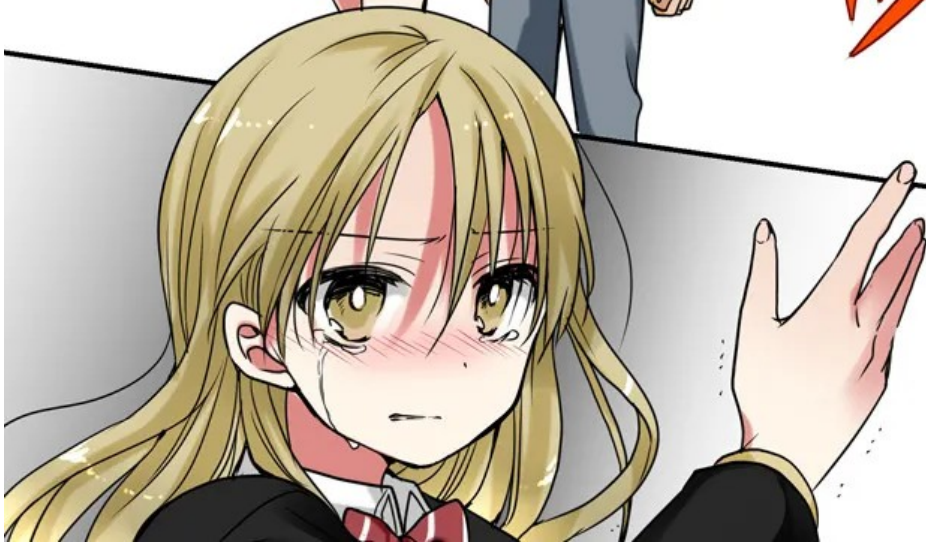


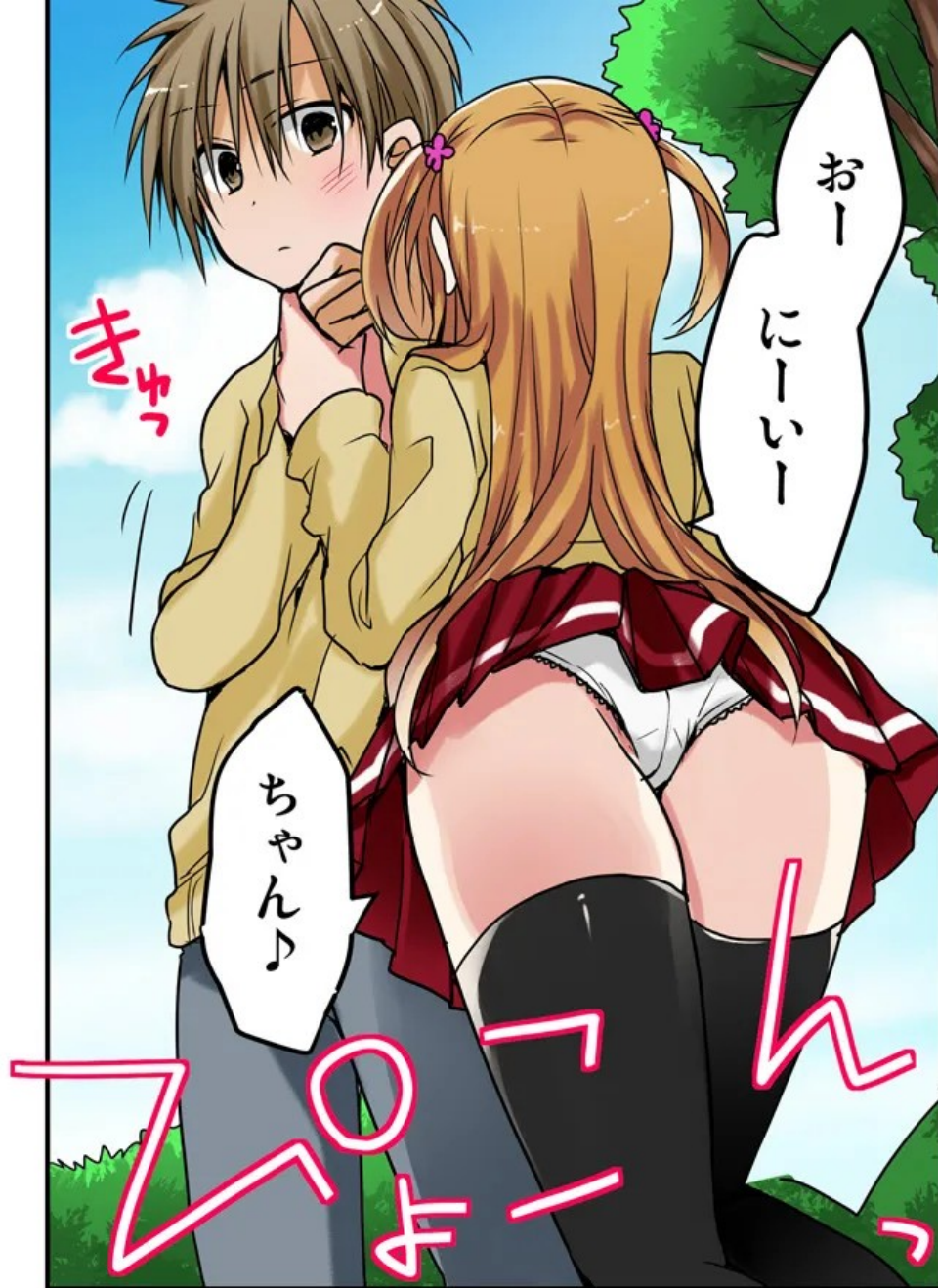
求められれば

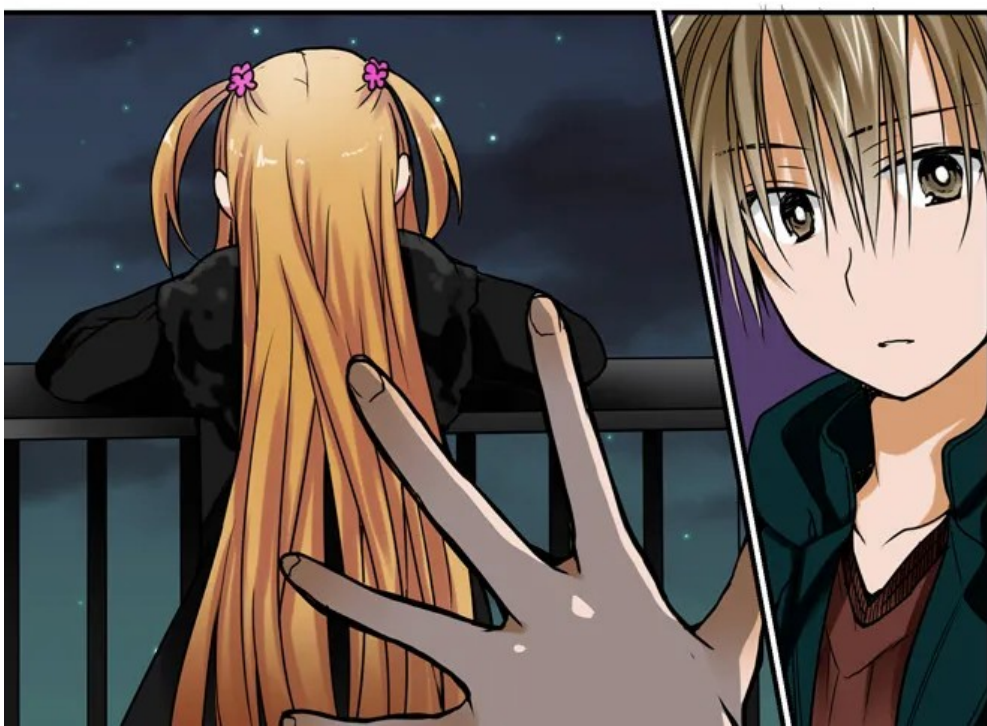
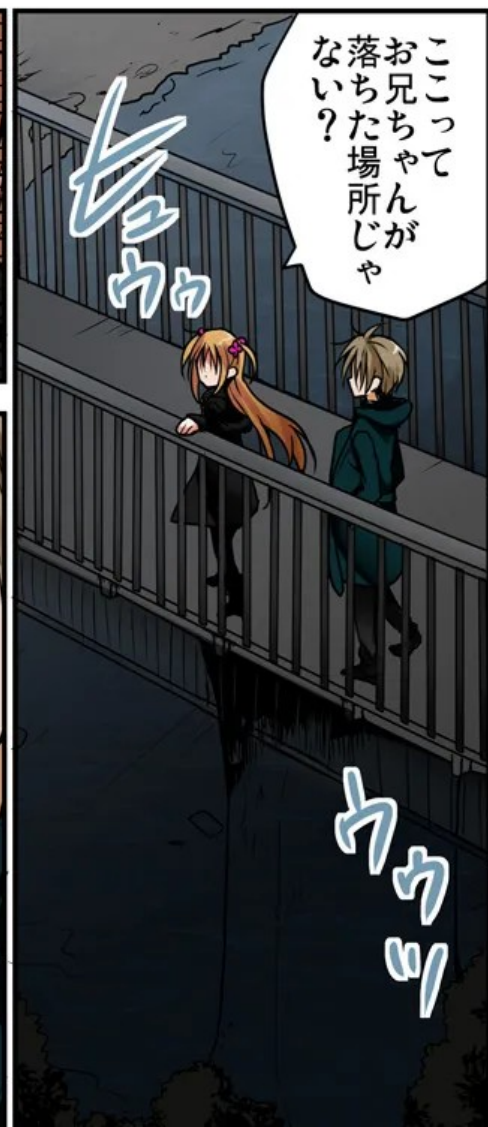
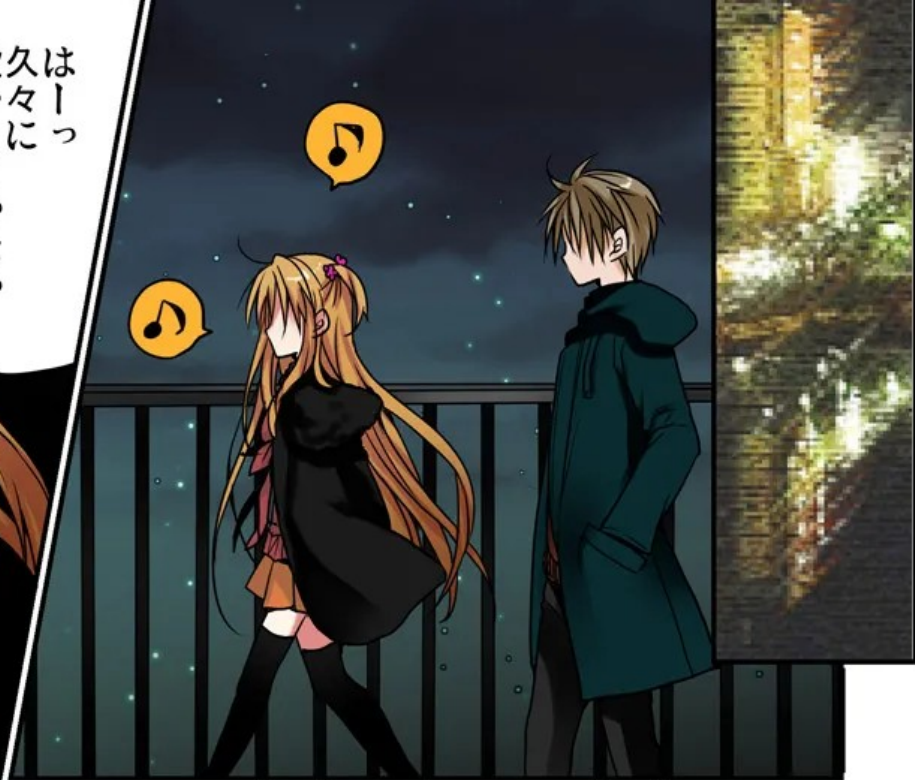
昼でも
夜でも

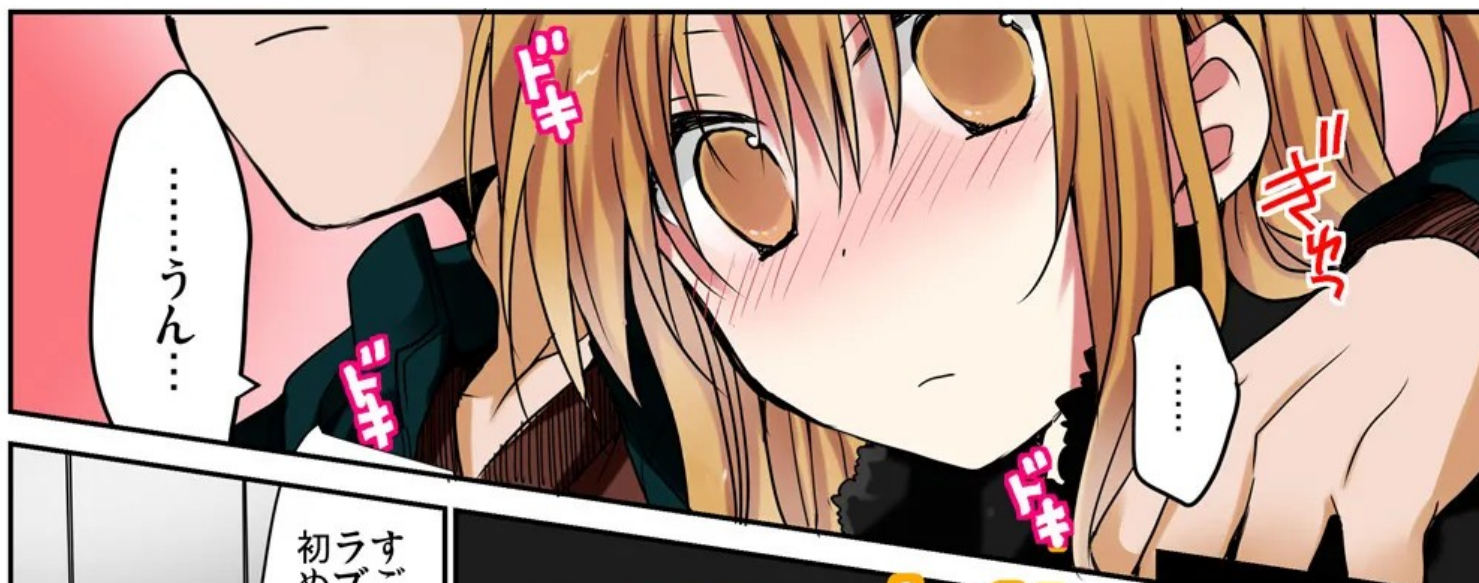
家でも
外でも

…たとえ
美希の家の前で









今日はいっぱい
エッチしようね
朝までラブラブしよ！

今日は
お兄ちゃんの
好きなプレイも
いっぱいしたげる

終わりにしよう

……えっ？

もう
終わりにしよう
こんな
狂った関係は

美希とも
別れたし

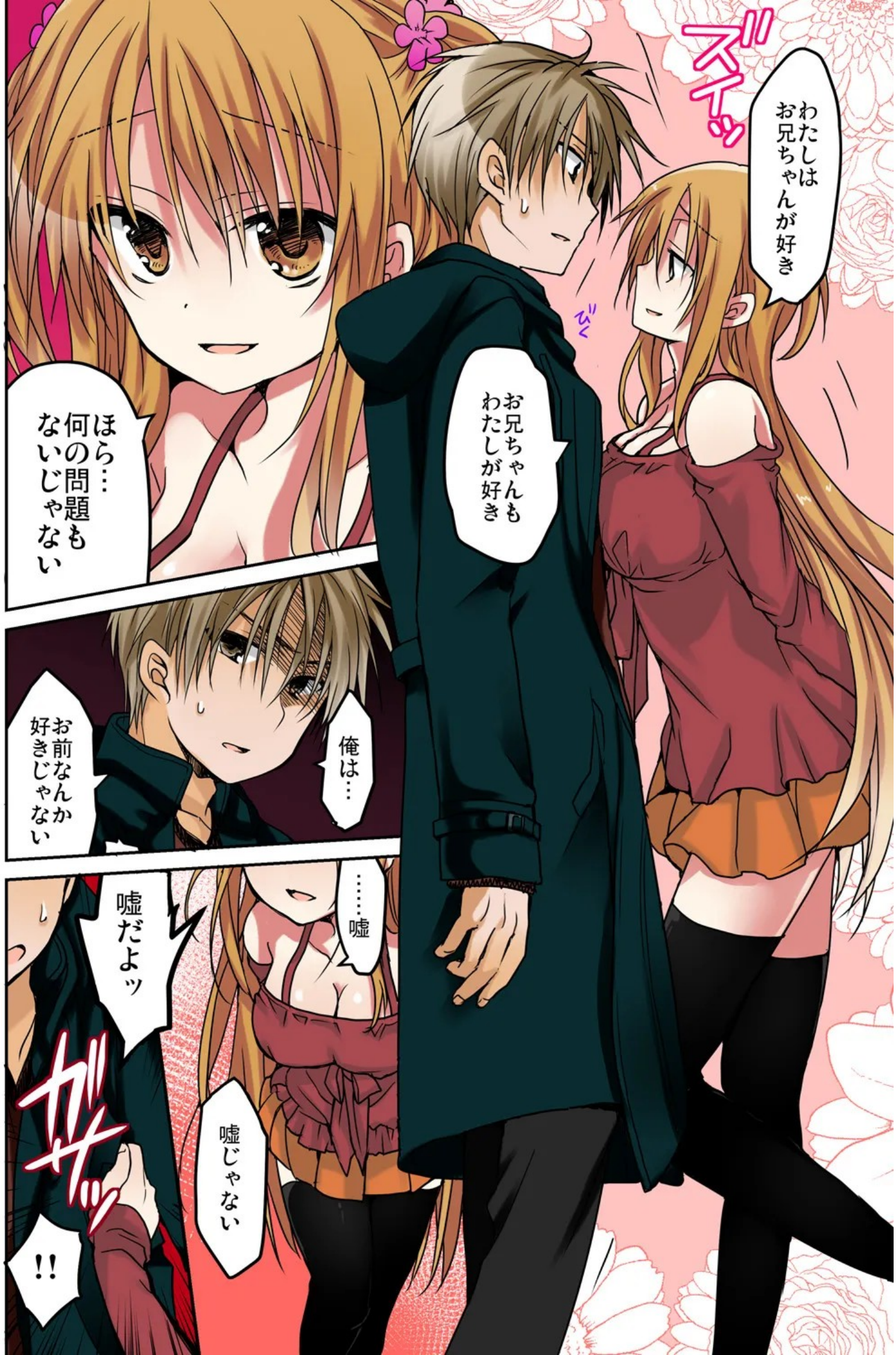
過去の俺が
犯した罪なら
その贖罪は
十分したはずだ

もういいだろ…
お前だってもう
十分俺を玩具にして
遊んだだろ…

お兄ちゃんが
何言ってるのか
わかんない

頼むよ
もう俺を
解放してくれ

普通の生活に
戻らせてくれ…！



わたしは
お兄ちゃんが好き

お兄ちゃんも
わたしが好き

ほら…
何の問題も
ないじゃない

俺は…

お前なんか
好きじゃない

…嘘

嘘だよッ

嘘じゃない

ガッ

!!

じゃあ何で

コート
の
レ
シ
ー
ト
な
ん
か
ま
だ
持
っ
て
る
の
か
!?

記
憶
が
な
い
な
ら
こ
ん
な
の
た
だ
な
ら
ゴ
ミ
だ
よ
ね
!?

捨
て
る
機
会
な
ん
か
い
く
ら
で
も
あ
っ
た
か
…
そ
う
で
し
ょ
!?



記憶…なくなっ
てなかったんでしょ？

わたしのこと
全部なかった
ことにしたくて
演技してたんだよね

死ねたら
良かったのに…

あの時ちゃんと
死ねたら
こんな風に二度も
優を傷つけないで
済んだのに…

ごめんなさい…
本当に守りたいと
思ってたんだ
でも同じくらい
好きで…好きで…

その結果がこれだ…
大切な人の人生を…
体を…心を…
俺自身が
めっちゃくちゃにして

後悔
してるんだ
だから…！！

今度こそ
本当に兄として
お前を守るから…
一生かけて償うから…
俺のことはもう
忘れてくれ！

俺みたいなの
死に損ないの
ゴミに執着して
人生を棒に
振らないでくれ…！！

お兄ちゃんでも
許さないから！

わたし
一番好きな人を
ゴミ扱いするなんて
許さないんだからっ！！

酷いよ…

わたしの
大切なものを
ゴミだなんて
勝手に
決めないで…

優...

ぞくぞく

...おかえり

わたしだけの
お兄ちゃん

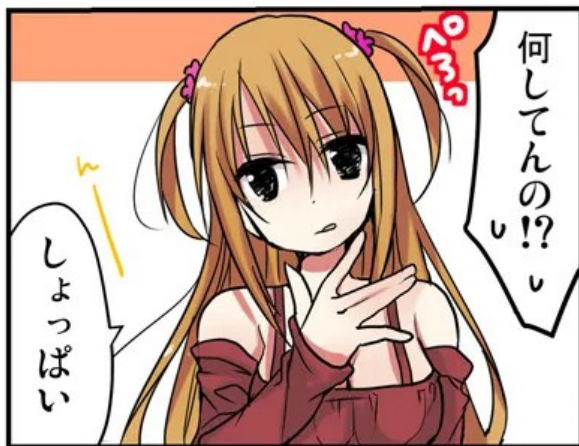
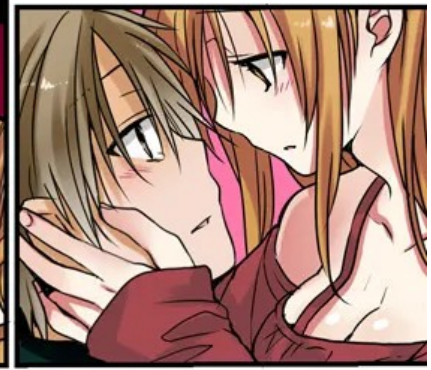
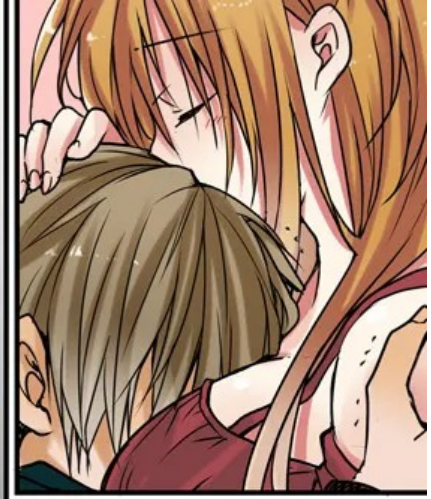
うわあああああつ...!

うっ...

あああ...っ



ちよ...っと
待って
泣いたから
鼻水が...



何してんの!?!
い

しょっぱい

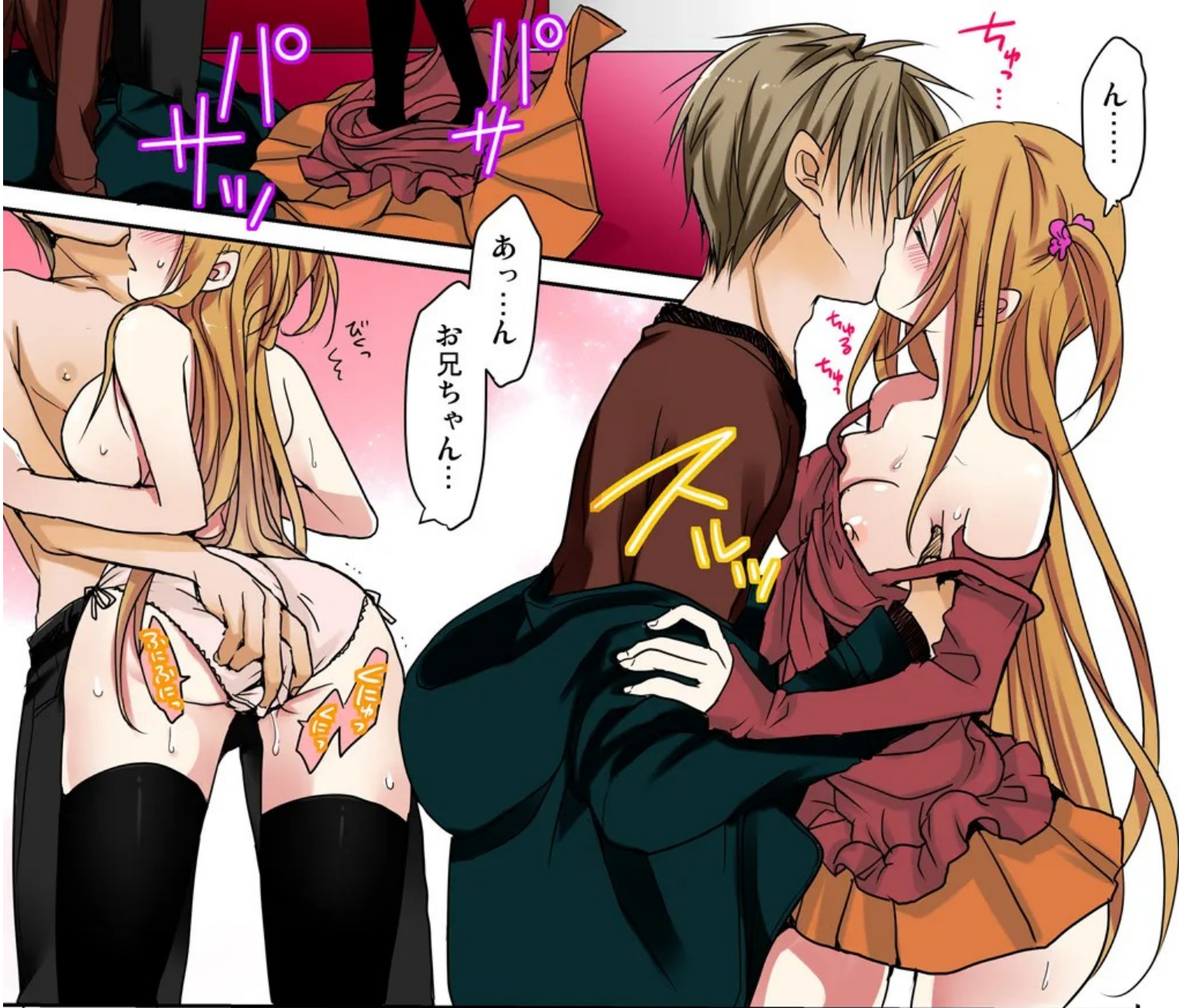


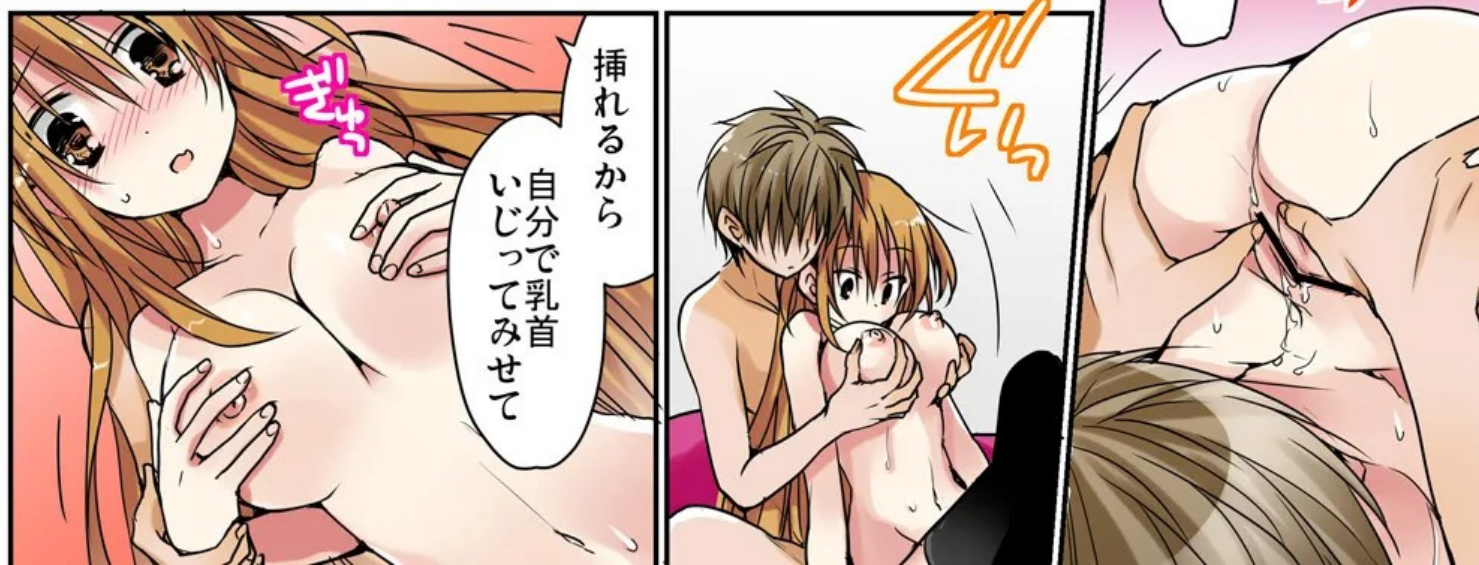
お前...

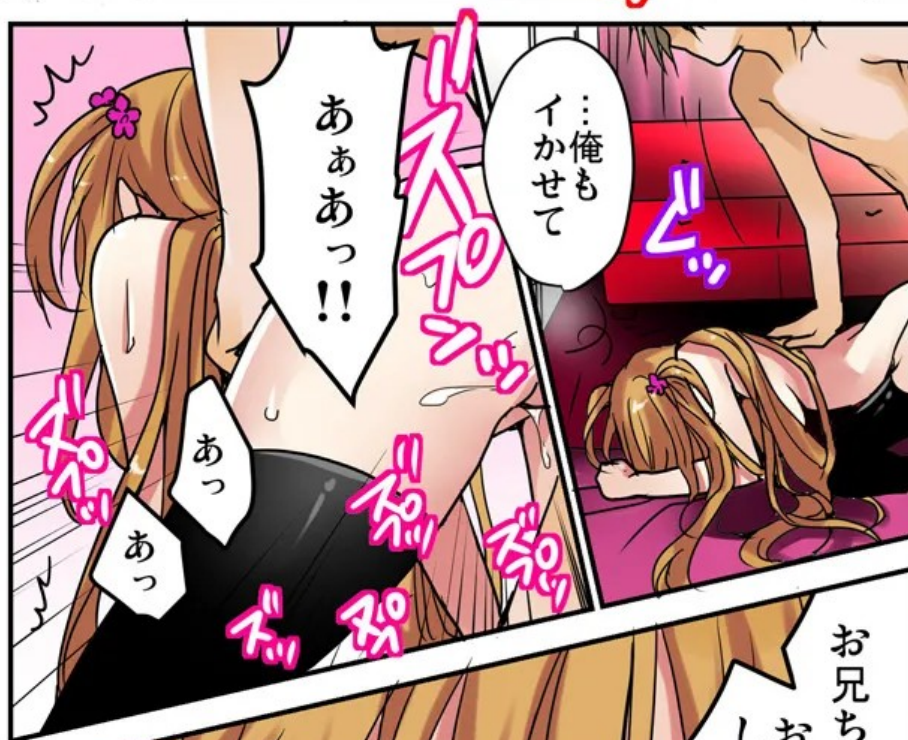
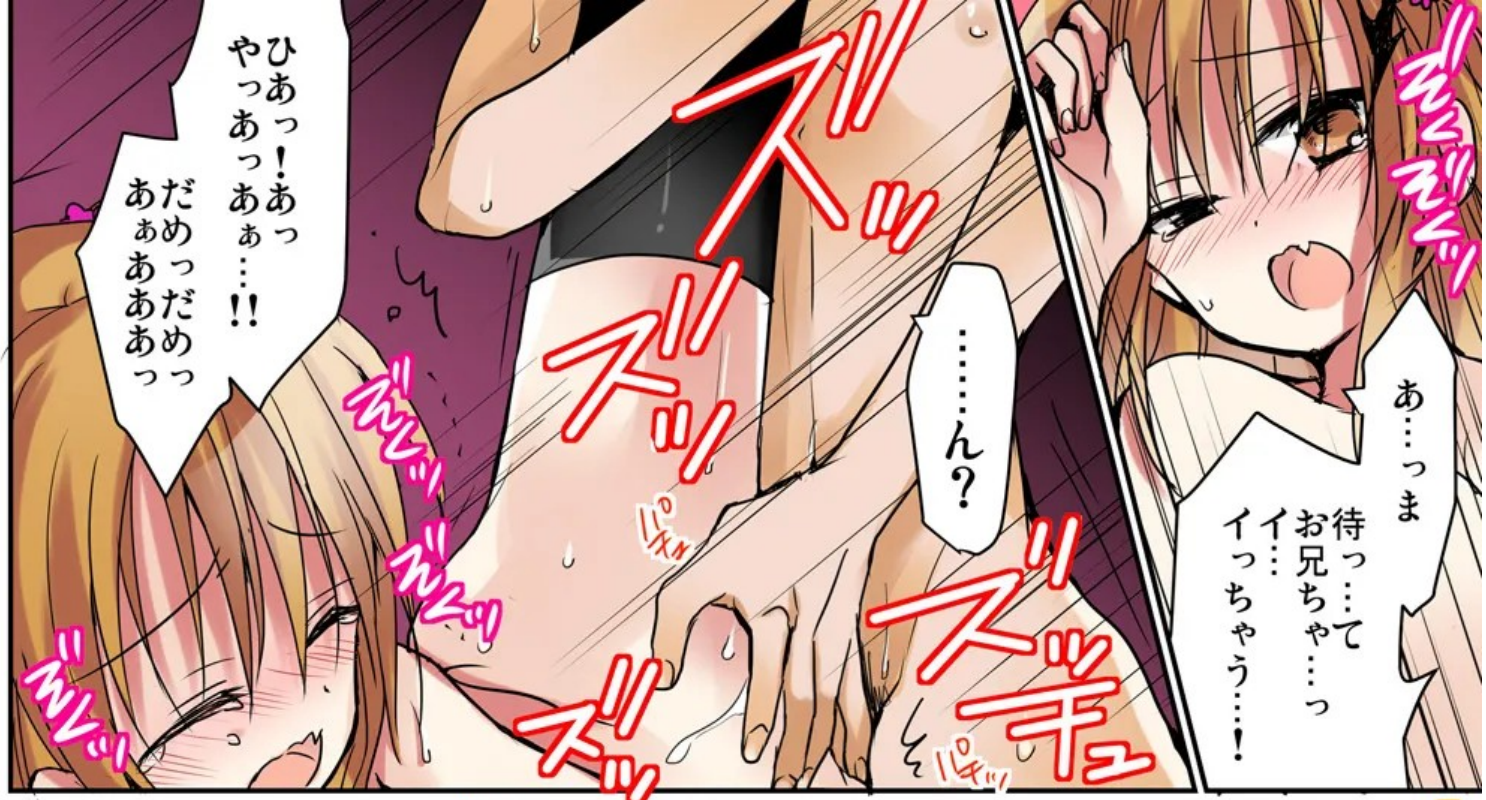
お兄ちゃんの
体液は
一滴残らず
わたしのもののなの

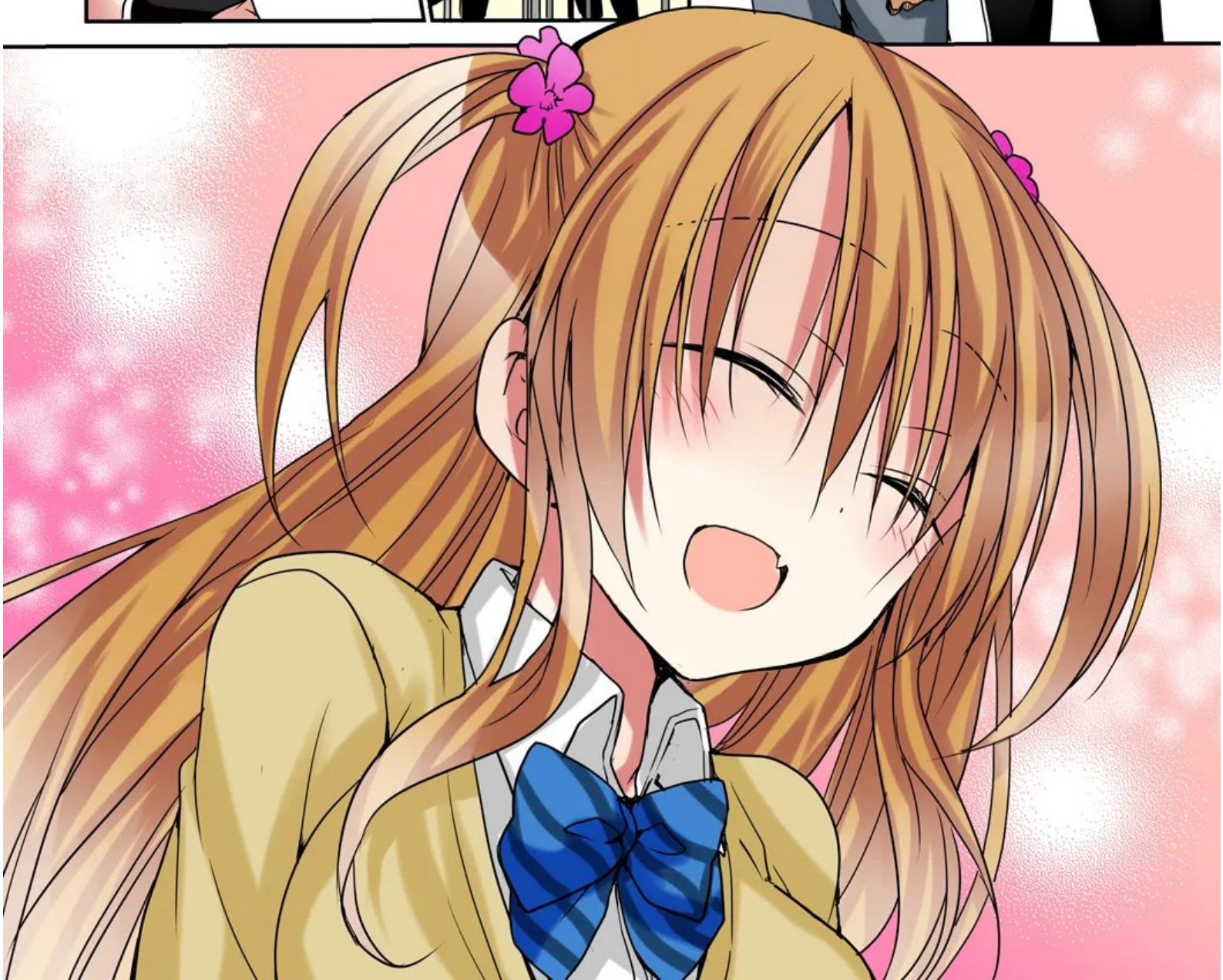
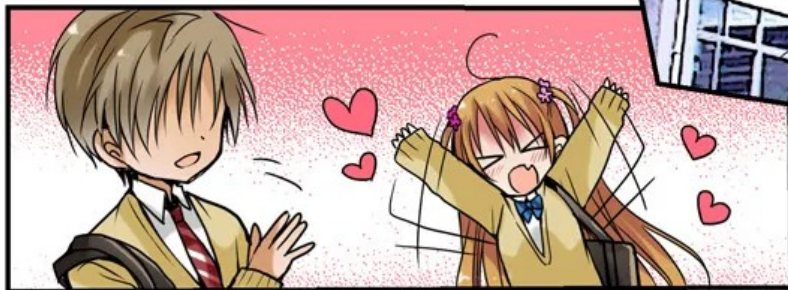


!?









あの夜、妹をハメた 感触だけは覚えてる。

第3話

ひびき滯

©ミリオン出版

※本書の一部あるいは全部を無断で複写転載することは法律で禁じられています。